

## 1-1 検討の背景と趣旨

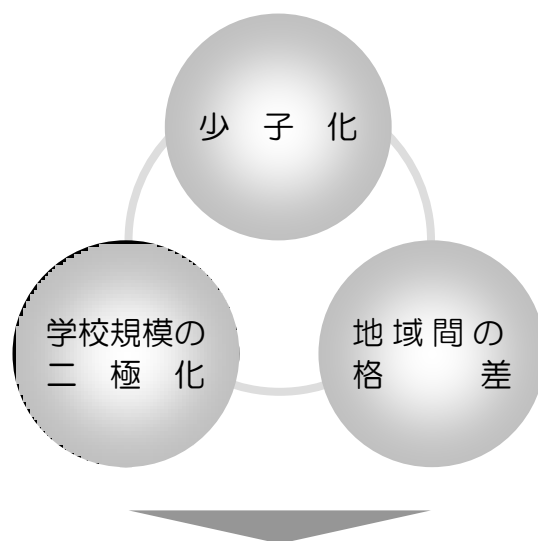
学校教育においては、21世紀社会を切り拓く人づくりの観点から、きめ細かな指導などにより確かな学力を身に付けることや、様々な集団活動を通して互いに切磋琢磨しながら、思いやりや社会性などの豊かな人間性を育成することが求められています。

このような中、小山市においては、全国的な少子化傾向と同じくして、全市的に児童生徒数が減少する一方で、特定の地域では宅地開発等により児童生徒数が増加するなど、学校規模の二極化が進んでいます。

特に、規模の小さな学校においては、切磋琢磨する機会の確保が難しいこと、規模の大きな学校においては、きめ細かな指導が難しいことなどの問題が指摘されており、教育条件や教育環境、学校運営の様々な面で地域間の格差が生じています。

また、学校規模の二極化は今後も進むことが予想され、将来を担う子どもたちの教育の機会均等と教育水準の向上などが課題となっていることから、全市的に学校の配置や規模を適正化する必要があると考えられます。

このため、懇話会では、少子化や教育的ニーズの多様化など社会的背景を踏まえ、本市における小中学校の現状と課題を把握するとともに、児童生徒のより良い教育環境づくりに向けて、学校適正配置等の基本となる方針や実現方策等について検討し、「小山市学校適正配置等に関する提言書」としてとりまとめました。



# 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## 1) 小中学校の現状

本市における学校規模等の現状として、施設数や、設置年度、職員数、児童生徒数、学級数、学校規模等の施設概要は、以下のようになります。

なお、特別支援学級に係る学級数・児童生徒数は、学校規模等により特別支援学級を設置する学校と設置していない学校があること、特別支援学級は、一学級あたりの児童生徒数が普通学級に比べ大幅に少ないことから、除外して検証しています。

### (1) 小中学校の施設概要

#### ① 立地状況

市内の小中学校数は、平成25年5月現在で、小学校が27校、中学校が11校です。

#### ② 児童生徒数

児童生徒数は、小学校では、市全体で9,088人、平均で337人となっており、学校別にみると、大谷東小の939人が最多で、下生井小の35人が最少です。

また、中学校では、市全体で4,494人、平均で409人となっており、学校別に見ると、小山第三中の761人が最多で、美田中の139人が最少です。

#### ③ 学級数

学級数は、小学校では、市全体で322学級、平均で12学級となっています。学校別では、大谷東小の26学級が最多で、小山第二小、羽川西小、豊田南小、豊田北小、寒川小、穂積小、中小、大谷南小、下生井小、網戸小、福良小、萱橋小、梁小、延島小の6学級が最少です。(ただし、国基準では、下生井小は4学級、網戸小は5学級です。)

また、中学校では、市全体で146学級、平均で13学級となっており、学校別にみると、小山第三中の23学級が最多で、豊田中、美田中、絹中の6学級が最少です。

#### ④ 職員数

職員数については、小学校では、市全体で597人、平均で22人となっており、学校別にみると、小山城東小の45人が最多で、寒川小、延島小の11人が最少です。

また、中学校では、市全体で341人、平均で31人となっており、学校別にみると、小南城南中の52人が最多で、絹中の15人が最少です。

## ⑤ 敷地面積

敷地面積のうち、校舎や体育館等の建物敷地については、小学校では、市全体の平均が約9,554㎡となっており、小学校別にみると、羽川小の16,867㎡が最も大きく、小山第二小の4,460㎡が最も小さくなっています。

また、中学校では、市全体の平均が約14,149㎡となっており、中学校別にみると、小山中の18,268㎡が最も大きく、小山第二中の8,740㎡が最も小さくなっています。

## ⑥ 設置年度

設置年度については、小学校では穂積小の明治6年度が最も古く、若木小と間々田東小の昭和59年度が最も新しくなっています。

また、中学校では、小山中、大谷中、間々田中、豊田中、桑中、絹中の昭和22年度が最も古く、乙女中の昭和63年度が最も新しくなっています。

## ⑦ 学区

学区は小中学校ごとに設定されており、原則として複数の小学校区を組み合わせて一つの中学校区を設定しています。

ただし特殊な例として、小山城北小学区の進学先中学は小山中、小山第三中、桑中の3学区に分かれています。

## ⑧ 地域区分

小山市における地域区分については、小山、大谷、間々田、美田、桑、絹の6地域に区分されています。

## ⑨ 自治会

小山市においては多くの自治会が存在し、概ね一つの小学校区に属していますが、一部では学区が複数に分かれる自治会が存在します。

■ 市内の小・中学校施設一覧

【平成25年5月現在】

No	地域名	学校名	学校所在地	児童生徒数	学級数	職員数	敷地面積 (㎡)			設置年度
							建物敷地	運動敷地	計	
1	小山	小山第一小	宮本町 1-3-1	308	12	26	8,815	13,407	22,222	M6
2		小山第二小	宮本町 2-9-20	183	6	14	4,460	5,944	10,404	M37
3		小山第三小	神鳥谷 2-9-20	273	12	21	9,305	13,200	22,505	S56
4		小山城南小	西城南 5-29-1	832	24	39	12,193	11,586	23,779	S57
5		旭小	駅南町 5-6-69	864	25	43	8,838	10,994	19,832	S48
6		小山城北小	城北 5-18-1	431	14	24	10,950	13,658	24,608	S58
7		若木小	若木町 2-6-44	306	12	23	10,026	23,230	33,256	S59
8	大谷	小山城東小	城東 1-16-1	792	24	45	13,959	11,393	25,352	S52
9		大谷東小	横倉新田 271	939	26	43	13,352	10,507	23,859	M15
10		大谷南小	東野田 2147	119	6	12	8,678	6,737	15,415	M7
11		大谷北小	犬塚 5-6-10	722	21	35	8,128	9,260	17,388	M13
12	間々田	間々田小	間々田 1512	530	18	33	13,843	7,711	21,554	M6
13		乙女小	乙女 1954	371	12	23	11,732	18,452	30,184	S50
14		間々田東小	間々田 57-2	566	18	28	10,621	16,974	27,595	S59
15		下生井小	下生井 1546	35	6	12	6,677	5,838	12,515	M6
16		網戸小	網戸 1514	52	6	12	5,546	8,685	14,231	M6
17	美田	豊田南小	松沼 668	176	6	15	6,382	9,734	16,116	M7
18		豊田北小	大本 808	120	6	14	6,944	7,906	14,850	M6
19		寒川小	中里 861	83	6	11	4,762	11,103	15,865	M6
20		穂積小	菟島 27	108	6	14	5,529	11,813	17,342	M6
21		中小	南小林 109	79	6	12	11,282	11,471	22,753	M6
22	桑	羽川小	羽川 125	651	20	31	16,867	12,320	29,187	M7
23		羽川西小	黒本 771-2	193	6	17	14,813	16,002	30,815	S52
24		萱橋小	萱橋 1169-1	135	6	14	10,360	12,750	23,110	M7
25	絹	福良小	福良 2246	80	6	12	8,511	8,118	16,629	M6
26		梁小	梁 67	77	6	13	7,700	10,932	18,632	M6
27		延島小	延島 1019	63	6	11	7,686	6,398	14,084	M6
<b>小学校計</b>				<b>9,088</b>	<b>322</b>	<b>597</b>	<b>257,959</b>	<b>306,123</b>	<b>564,082</b>	
<b>小学校平均</b>				<b>337</b>	<b>12</b>	<b>22</b>	<b>9,554</b>	<b>11,338</b>	<b>20,892</b>	
1	小山	小山中	渋井 779-1	390	13	29	18,268	18,017	36,285	S22
2		小山第二中	天神町 1-6-36	332	12	31	8,740	8,500	17,240	S30
3		小山城南中	東城南 1-22-9	733	22	52	10,867	22,647	33,514	S62
4	大谷	小山第三中	犬塚 3-29-1	761	23	51	18,000	22,271	40,271	S55
5		大谷中	横倉新田 97	467	15	32	16,567	30,152	46,719	S22
6	間々田	間々田中	間々田 2364	588	18	39	17,302	22,921	40,223	S22
7		乙女中	乙女 1731	268	9	21	16,728	28,444	45,172	S63
8	美田	豊田中	松沼 397	161	6	17	9,419	11,782	21,201	S22
9		美田中	下国府塚 287	139	6	17	13,433	19,382	32,815	S39
10	桑	桑中	出井 1859	512	16	37	15,665	29,204	44,869	S22
11	絹	絹中	福良 2250	143	6	15	10,655	14,370	25,025	S22
<b>中学校計</b>				<b>4,494</b>	<b>146</b>	<b>341</b>	<b>155,644</b>	<b>227,690</b>	<b>383,334</b>	
<b>中学校平均</b>				<b>409</b>	<b>13</b>	<b>31</b>	<b>14,149</b>	<b>20,699</b>	<b>34,849</b>	
<b>合計</b>				<b>13,582</b>	<b>468</b>	<b>938</b>	<b>413,603</b>	<b>533,813</b>	<b>947,416</b>	

※ 特別支援学級を除く

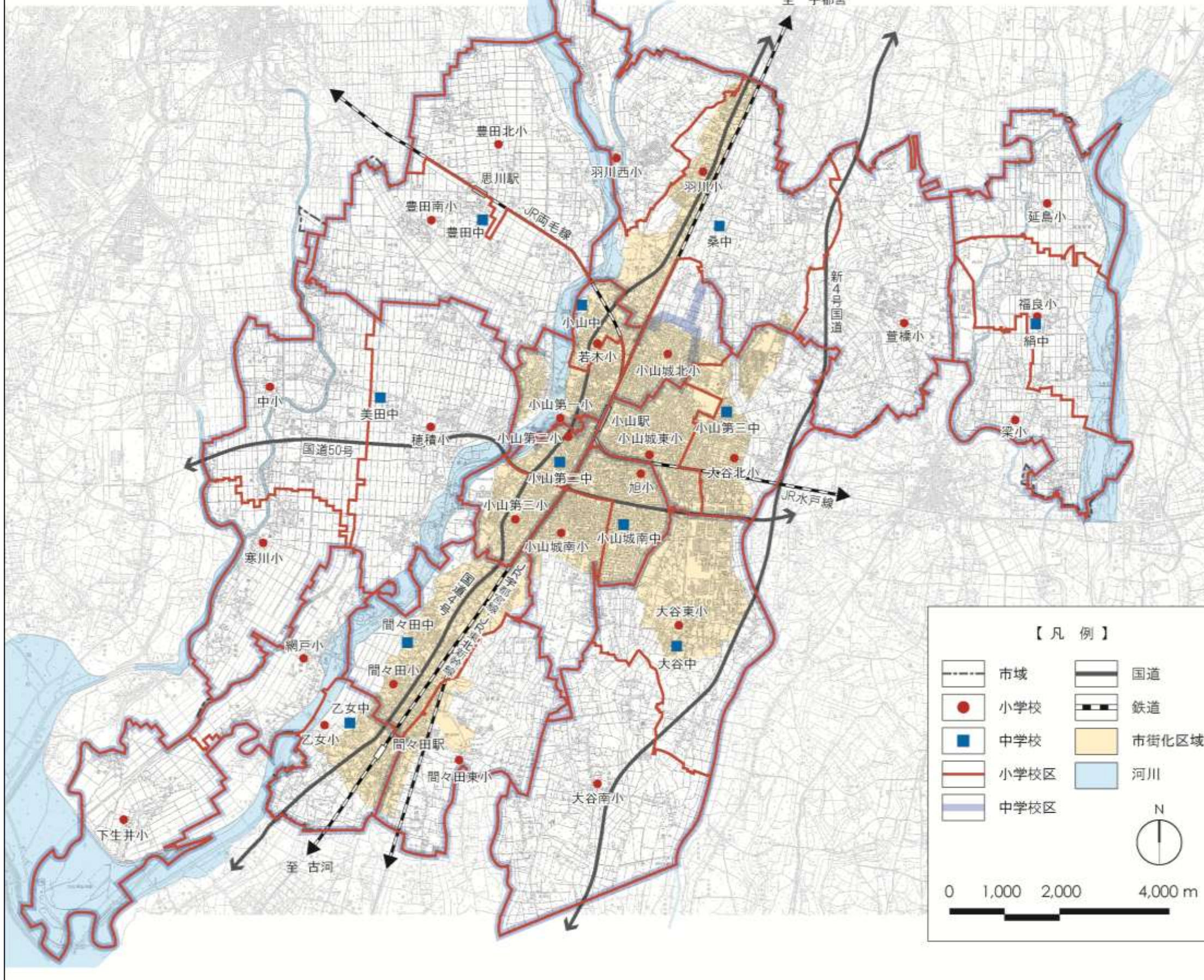
1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

■ 市内の小中学校立地と学区状況図

【平成25年5月現在】

■ 市内の学区状況表

【平成25年5月現在】



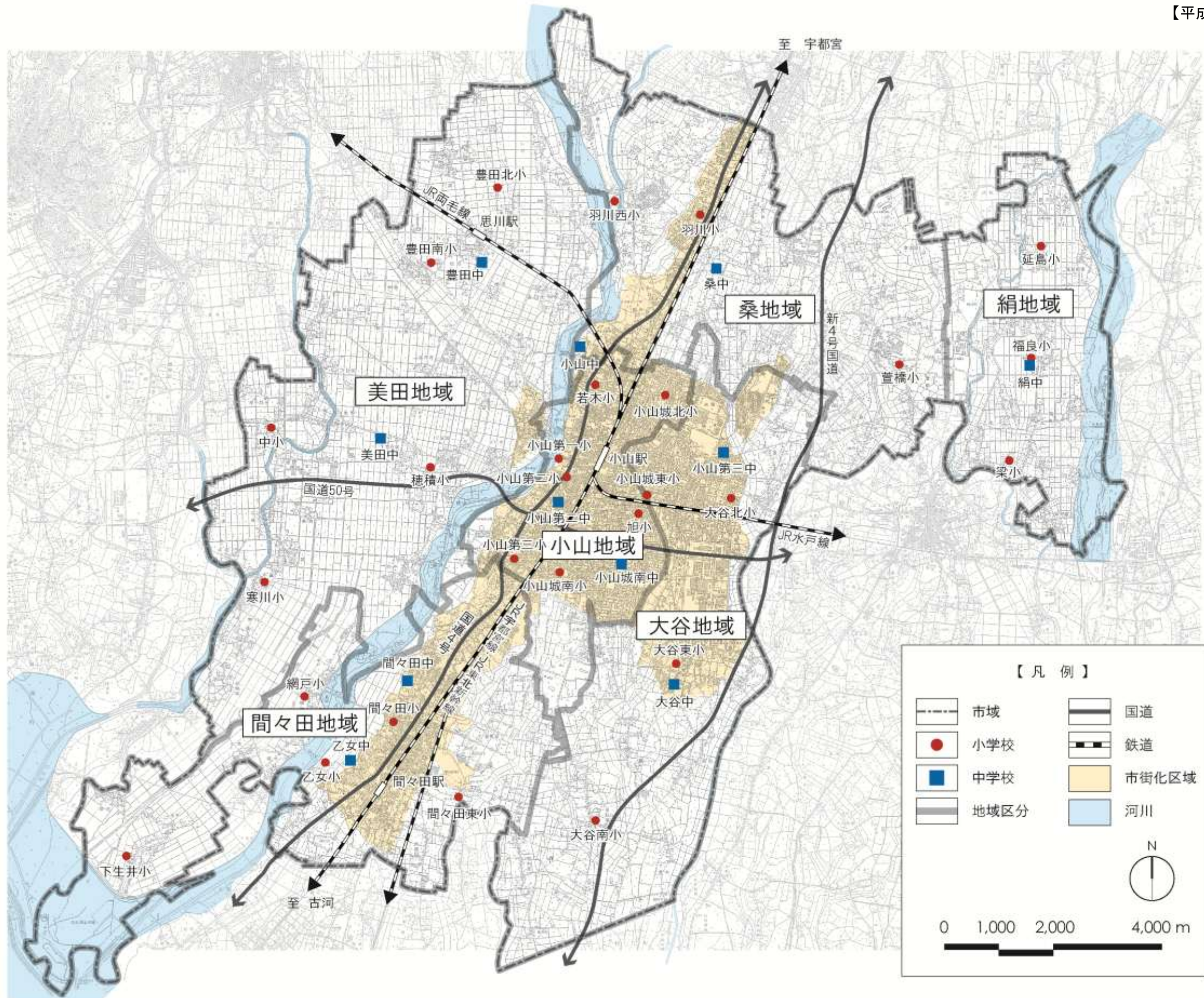
No	中学校区	小学校名
1	小山中	小山第一小
		若木小
		小山城北小の一部
2	小山第二中	小山第二小
		小山第三小
3	小山第三中	小山城東小
		大谷北小
		小山城北小の一部
4	小山城南中	小山城南小
		旭小
5	大谷中	大谷東小
		大谷南小
6	間々田中	間々田小
		間々田東小
		乙女小
7	乙女中	下生井小
		網戸小
		豊田南小
8	豊田中	豊田北小
		寒川小
9	美田中	穂積小
		中小
		羽川小
10	桑中	羽川西小
		萱橋小
		小山城北小の一部
11	絹中	福良小
		梁小
		延島小



1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

【平成25年5月現在】

■ 小山市の地域区分図







## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ■ (2) 学校規模の状況

学校規模について、小規模校を「12学級未満の小学校」及び「9学級未満の中学校」、適正規模校を「12学級以上18学級未満の小学校」及び「9学級以上18学級未満の中学校」、大規模校を「19学級以上の小中学校」とした場合、本市の小中学校は、以下のように分類されます。

## ① 小規模校

小学校27校のうち、小規模校は14校（約52%）となっており、14校すべてが全学年単学級校で、さらにそのうち2校は国・県の基準における「複式学級を有する学校」に該当しています。（ただし、小山市では市の教員を配当することにより、複式学級を解消しています。）

また、中学校11校のうち、小規模校は3校となっています。

## ② 大規模校

小学校27校のうち、大規模校は、6校となっています。そのうち、2校は25学級以上の特に規模の大きな学校になっています。

また、中学校11校のうち、大規模校は2校となっています。

## ■ 学級数による学校規模の分類表

【平成25年5月現在】

	小規模校	適正規模校	大規模校
	全学年単学級		
	6学級以下	7～11学級	12～18学級
小学校	7～11学級	12～18学級	19学級以上
	小山第二小(6)、大谷南小(6)、下生井小(6)、網戸小(6)、豊田南小(6)、豊田北小(6)、寒川小(6)、穂積小(6)、中小(6)、羽川西小(6)、萱橋小(6)、福良小(6)、梁小(6)、延島小(6)	小山第一小(12)、小山第三小(12)、小山城北小(14)、若木小(12)、間々田小(18)、乙女小(12)、間々田東小(18)	小山城南小(24)、旭小(25)、小山城東小(24)、大谷東小(26)、大谷北小(21)、羽川小(20)
	8学級以下	9～18学級	19学級以上
中学校	9～18学級	19学級以上	
	豊田中(6)、美田中(6)、絹中(6)	小山中(13)、小山第二中(12)、大谷中(15)、間々田中(18)、乙女中(9)、桑中(16)	小山第三中(23)、小山城南中(22)

### （３）教室数の状況

学校の教室には、普通教室、特学教室（特別支援学級教室）、特別教室の３種類があります。

大規模化が進んでいる学校では、児童生徒数の増加に伴う学級数の増加により、将来的に普通教室数が不足する可能性があるかと予想されます。

普通教室数の不足を防ぐためには、特別教室を可能な範囲で普通教室に転用する方法も考えられます。

これらを踏まえ、教室数の不足する可能性のある学校ごとに最大教室数を整理した結果は、以下のとおりです。

#### ■ 主な小中学校教室数及び普通教室への転用可能教室数一覧表 【平成25年5月現在】

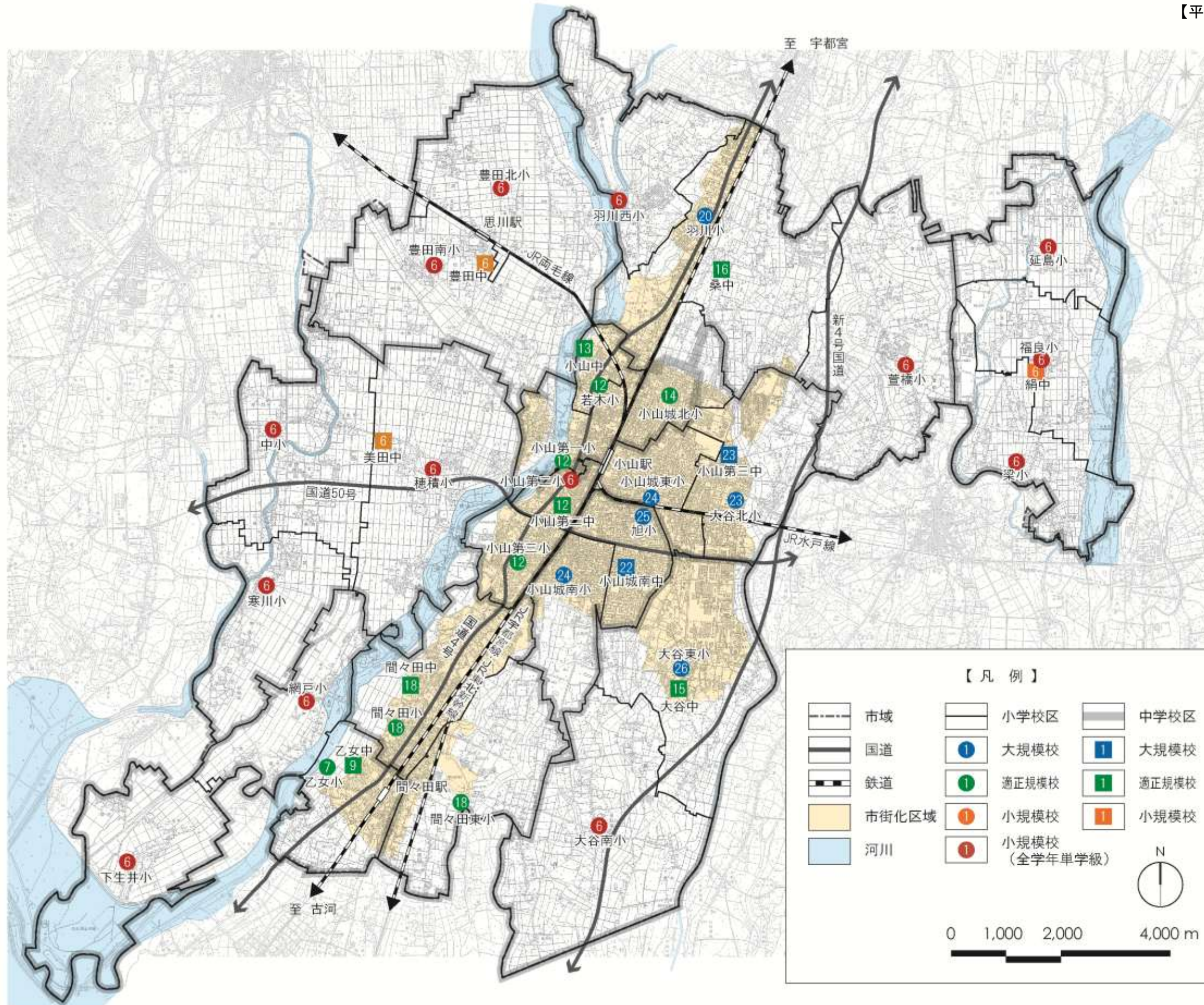
※最大教室数に対して必要学級数に余裕がある学校を除く

	No	学 校 名	現 況				【D】 転用可能 教室数	【A+D】 最大 教室数
			【A】 普通教室	【B】 特学教室	【C】 特別教室	うち教科教室		
小 学 校	1	小山第一小	12	3	23	8	14	26
	2	小山第二小	6	1	14	7	7	13
	3	小山第三小	12	2	7	6	1	13
	4	小山城南小	24	3	7	7	0	24
	5	旭 小	25	2	9	7	3	28
	6	小山城北小	14	2	8	6	2	16
	7	若 木 小	12	2	9	6	1	13
	8	小山城東小	24	3	13	8	4	28
	9	大 谷 東 小	26	3	10	8	4	30
	10	大 谷 南 小	6	0	10	6	3	9
	11	大 谷 北 小	21	3	15	8	7	28
	12	間々田小	18	3	13	8	4	22
	13	乙 女 小	12	2	20	8	10	22
	14	間々田東小	18	1	6	6	0	18
中 学 校	1	小 山 中	13	2	24	11	11	24
	2	小山第二中	12	3	15	12	3	15
	3	小山第三中	23	3	19	12	6	29
	4	小山城南中	22	4	15	12	4	26
	5	大 谷 中	15	2	15	11	4	19

1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

■ 学校規模状況図

【平成25年5月現在】









1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

■ (4) 児童生徒数の現状と推移

将来的な学校の大規模化や小規模化を想定するため、各学校の児童生徒数に関する現在までの推移と今後の推移について、市全体及び地域別に整理すると、以下のようになります。

① 市全体

- 市全体の児童生徒数は減少傾向が続いていましたが、現在はほぼ横ばいとなっており、今後も同様の傾向が続くと予想されます。

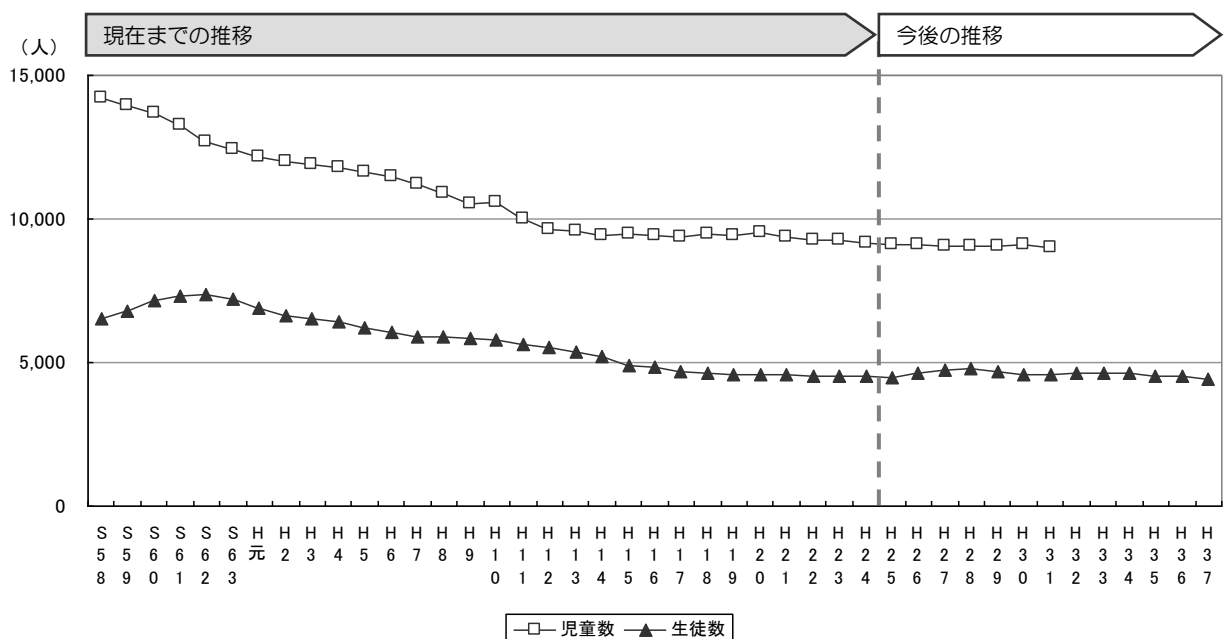
【小学校の児童数の現状と推移】

- 市全体の小学校の児童数は、平成25年5月現在で9,088人となっています。
- 児童数の推移をみると、平成15年の9,454人と比べて366人が減少し、平成5年の11,610人と比べて2,522人が減少するなど、減少傾向にあります。

【中学校の生徒数の現状と推移】

- 市全体の中学校の生徒数は、平成25年5月現在で4,494人となっています。
- 生徒数の推移をみると、平成15年の5,212人と比べて718人が減少し、平成5年の6,206人と比べて1,712人が減少するなど、減少傾向にあります。

■ 児童数の推移（市全体）



## ② 小山地域

- 小山城南小、旭小、小山城南中の児童生徒数が特に多く、小山城南小は減少傾向にありますが、旭小と小山城南中は今後も増加すると予想されます。
- その他の小学校では、若干の増減があるもののほぼ横ばいとなっており、今後は小山第一小で増加、若木小で減少、その他はほぼ横ばいになると予想されます。
- 小山城南中は生徒数が特に多く、増加傾向にありますが、今後は横ばいになることが予想されます。
- 小山中と小山第二中の生徒数は概ね市平均と同様であり、今後は小山中で緩やかに増加、小山第二中は緩やかに減少しながらほぼ横ばいになることが予想されます。

### 【小学校の児童数の現状と推移】

- [小山第一小学校] [小山第二小学校] [小山第三小学校] は減少傾向にありましたが、現在ではほぼ横ばいとなっています。今後は、[小山第一小学校] は 300 人台前半、[小山第二小学校] は 180 人前後、[小山第三小学校] は 270 人前後で推移すると予想されます。
- [若木小学校] は減少傾向にありましたが、現在ではほぼ横ばいとなっています。今後は、隣接する他学区からの転入児童(全学年で現在 105 人)がないものと仮定した場合には徐々に減少し、平成 28 年度には単学級の発生により、小規模校となることが予想されます。
- [旭小学校] は増加傾向にあり、平成 27 年度には 900 人を超えると予想されます。
- [小山城南小学校] は増加傾向にありましたが、平成 20 年度を境に減少傾向となり、今後も減少することが予想されます。
- [小山城北小学校] は若干の増加傾向にありましたが、現在ではほぼ横ばいとなっています。今後は、400 人前半でほぼ横ばいに推移すると予想されます。

### 【中学校の生徒数の現状と推移】

- [小山中学校] は、減少傾向にあります。今後は、400 人前半で横ばいになることが予想されます。
- [小山第二中学校] は、減少傾向にありましたが、現在は若干の増加傾向にあります。今後は再び減少し、平成 27 年度には 300 人を下回ることが予想されます。
- [小山城南中学校] は、増加傾向にありましたが、現在ではほぼ横ばいとなっています。今後も徐々に増加が見られ、平成 28 年度には、800 人を超えると予想されます。





### ③ 大谷地域

- 小山城東小、大谷東小、大谷北小は児童数が特に多く、増加傾向が続いています。大谷東小は、今後も増加傾向が続き、小山城東小と大谷北小はほぼ横ばいになると予想されます。
- 大谷南小は児童数が特に少なく、減少傾向が続いており、今後も減少すると予想されます。
- 小山第三中は生徒数が多く、増減を繰り返しながらも、今後はほぼ横ばいになると予想されます。
- 大谷中の生徒数は市平均まで減少しましたが、近年では増加傾向にあり、今後も増加することが予想されます。

#### 【小学校の児童数の現状と推移】

- [小山城東小学校] は、減少傾向にありましたが、平成 12 年を境に増加傾向となり、現在ではほぼ横ばいとなっています。今後は、800 人台前半でほぼ横ばいになることが予想されます。
- [大谷東小学校] は、減少傾向にありましたが、現在では増加傾向となっています。今後は、今後も増加を続け、平成 28 年度には教室不足が生じると予想されます。
- [大谷南小学校] は、減少傾向が続いています。今後は、減少が続き、平成 29 年度には 100 人以下となることが予想されます。
- [大谷北小学校] は、平成 6 年をピークに減少傾向にありましたが、現在では若干の増加傾向にあります。今後は、700 人台後半を徐々に増加することが予想されます。

#### 【中学校の生徒数の現状と推移】

- [小山第三中学校] は、昭和 62 年を境に減少傾向にありましたが、現在は若干の増減を繰り返しながらも、ほぼ横ばいとなっています。今後は徐々に増加し、平成 28 年度には 800 人台になることが予想されます。
- [大谷中学校] は、昭和 62 年を境に減少傾向にありましたが、ここ数年は増加傾向にあります。今後も増加を続け、平成 27 年度には 500 人、平成 32 年度には 600 人を超えることが予想されます。



#### ④ 間々田地域

- 間々田小と間々田東小は児童数が多く、間々田小は減少傾向、間々田東小は増加傾向にありましたが、今後はほぼ横ばいになると予想されます。
- 乙女小の児童数は市平均と同等まで減少し、近年ではほぼ横ばいとなりましたが、今後は減少していくことが予想されます。
- 下生井小、網戸小は児童数が特に少なく、減少傾向にあり、今後も同様の傾向が続くと予想されます。
- 間々田中は生徒数がやや多く、乙女中はやや少なくなっていますが、どちらも増減を繰り返しながら減少傾向にあり、今後も同様の傾向が続くと予想されます。

#### 【小学校の児童数の現状と推移】

- [間々田小学校] は、減少傾向にありましたが、平成 2 年から平成 18 年に掛けてはほぼ横ばいとなり、現在は再び減少傾向となっています。今後は、徐々に減少し、平成 29 年度には 500 人以下となることが予想されます。
- [乙女小学校] は、徐々に減少していましたが、現在は若干の増加傾向にあります。今後は、徐々に減少し、平成 31 年度には 300 人程度となることが予想されます。
- [間々田東小学校] は、減少傾向にありましたが、平成 10 年頃から増加傾向となり、現在はほぼ横ばいとなっています。今後は、500 人台後半でほぼ横ばいとなることが予想されます。
- [下生井小学校]、[網戸小学校] は減少傾向にあります。今後も減少傾向が続くと予想されます。

#### 【中学校の生徒数の現状と推移】

- [間々田中学校] は、増加傾向にありましたが、平成 63 年度から減少傾向となり、その後は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいとなっています。今後は、平成 27 年度をピークに徐々に減少することが予想されます。
- [乙女中学校] は、減少傾向にありましたが、平成 20 年度から増加が見られました。今後は、200 人台で徐々に減少することが予想されます。



## ⑤ 美田地域

- 全ての小学校で児童数が少なく、減少傾向にあり、今後も同様の傾向が続くと予想されます。
- 全ての中学校で生徒数が少なく、減少傾向にあり、今後も緩やかに減少していくことが予想されます。

### 【小学校の児童数の現状と推移】

- [豊田南小学校] は、減少傾向が続いていましたが、現在はほぼ横ばいとなっています。今後は、緩やかに減少することが予想されます。
- [豊田北小学校]、[穂積小学校] は、減少傾向が続いており、今後も緩やかに減少が続くことが予想されます。
- [寒川小学校] は減少傾向にあり、今後も続くと予想されます。
- [中小学校] は、減少傾向が続いています。今後は 70 人台をほぼ横ばいに推移し、平成 28 年度から若干の増加傾向がみられると予想されます。

### 【中学校の生徒数の現状と推移】

- [豊田中学校] は、ほぼ横ばいとなっていましたが、徐々に減少傾向となり、現在は再びほぼ横ばいとなっています。今後も若干の増減を繰り返しながら、徐々に減少が続くことが予想されます。
- [美田中学校] は、増加傾向にありましたが、平成 4 年度を境に減少傾向が続いています。今後も若干の増減を繰り返しながら、徐々に減少が続くことが予想されます。



## ⑥ 桑地域

- 羽川小は児童数が多く、減少傾向にありましたが、近年では横ばいとなっており、今後もほぼ横ばいで推移することが予想されます。
- 羽川西小と萱橋小は生徒数が少なく、減少傾向にあり、羽川西小は今後も減少し、萱橋小はほぼ横ばいになることが予想されます。
- 桑中は生徒数が市平均よりも若干多くなっており、現在は減少傾向からほぼ横ばいとなりましたが、将来的には再び減少傾向になることが予想されます。

### 【小学校の児童数の現状と推移】

- [羽川小学校] は、概ね減少傾向にありましたが、現在はほぼ横ばいとなっています。今後は、約 650～670 人でほぼ横ばいに推移することが予想されます。
- [羽川西小学校] は開校して間もない頃から長く減少傾向が続いています。今後も、徐々に減少を続けることが予想されます。
- [萱橋小学校] は減少傾向が続いています。今後は、140 人前後を横ばいに推移しますが、平成 30 年度には減少することが予想されます。

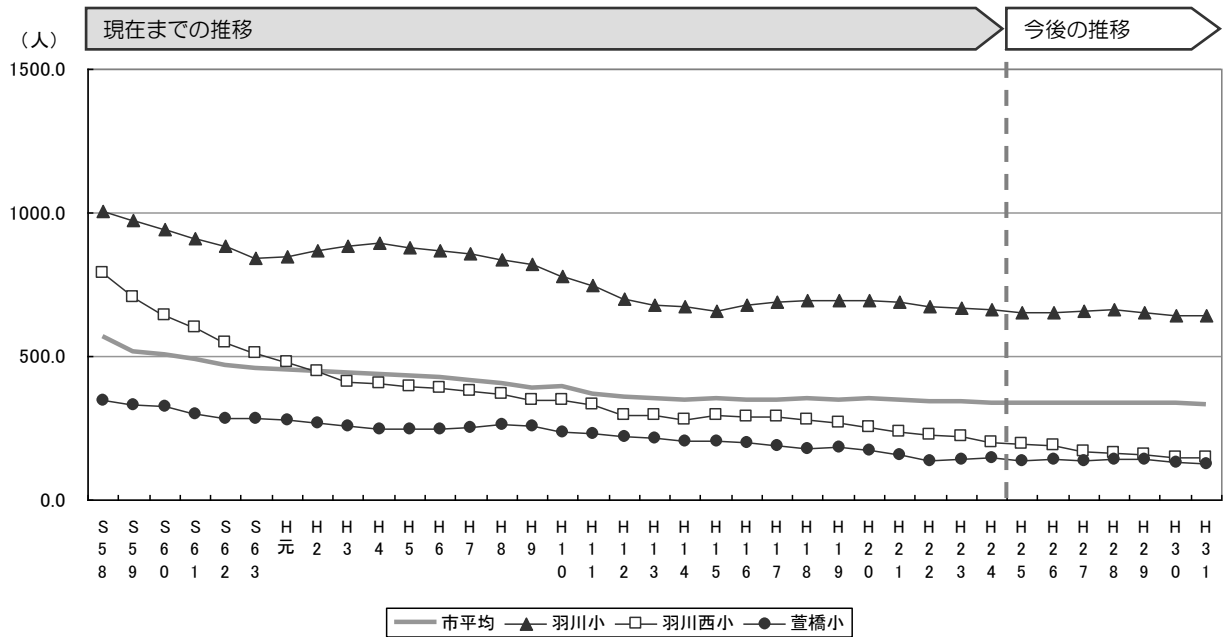
### 【中学校の生徒数の現状と推移】

- [桑中学校] は、昭和 61 年度をピークに減少傾向が続き、現在はほぼ横ばいとなっています。今後は、増加傾向がみられますが、平成 28 年度をピークに徐々に減少することが予想されます。

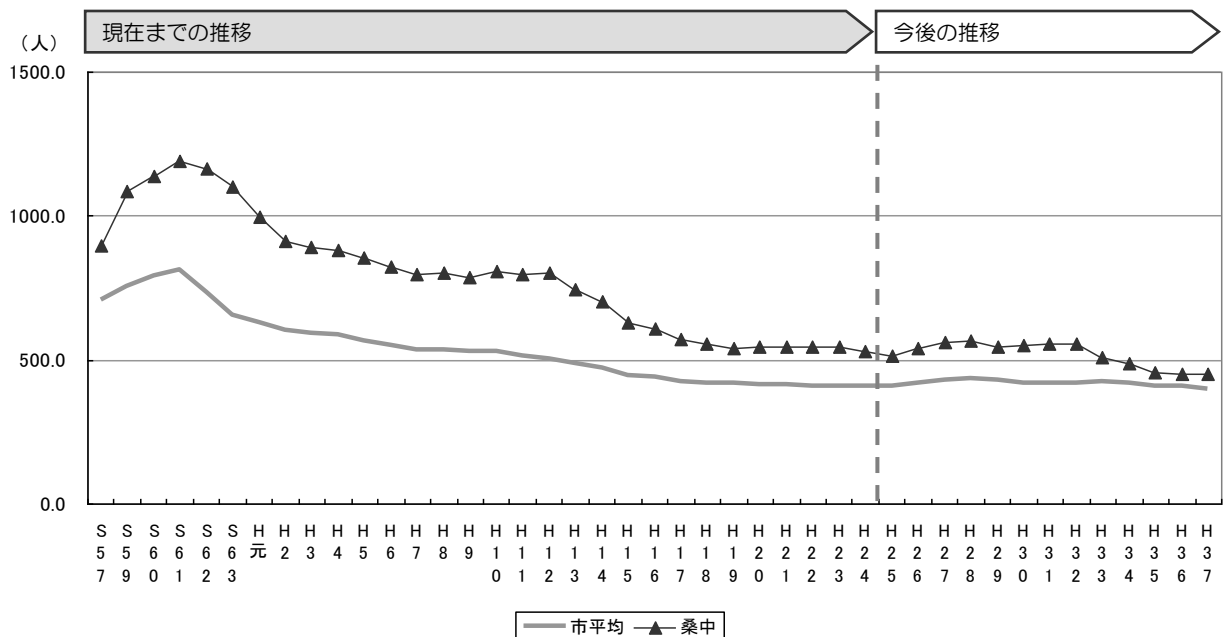


1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

■ 児童数の推移（桑地域）



■ 生徒数の推移（桑地域）



## ⑦ 絹地域

- 全ての小中学校で児童生徒数が特に少ない状態で、現在は減少傾向が緩やかになり、ほぼ横ばいとなっていますが、今後も緩やかに減少していくことが予想されます。

### 【小学校の児童数の現状と推移】

- [福良小学校]、[梁小学校]、[延島小学校] は、減少傾向が続いていますが、現在はその傾向が緩やかとなり、概ね横ばいとなっています。今後は、徐々に減少を続けることが予想されます。
- 延島小は、国基準によれば、平成 28 年度から複式学級が発生することが予想されます。

### 【中学校の生徒数の現状と推移】

- [絹中学校] は、減少傾向が続いており、現在ではほぼ横ばいとなっています。今後も平成 27 年度まで横ばいに推移しますが、その後は減少傾向となり、平成 28 年度には学年単学級が生じ、平成 30 年度には 100 人以下となることが予想されます。

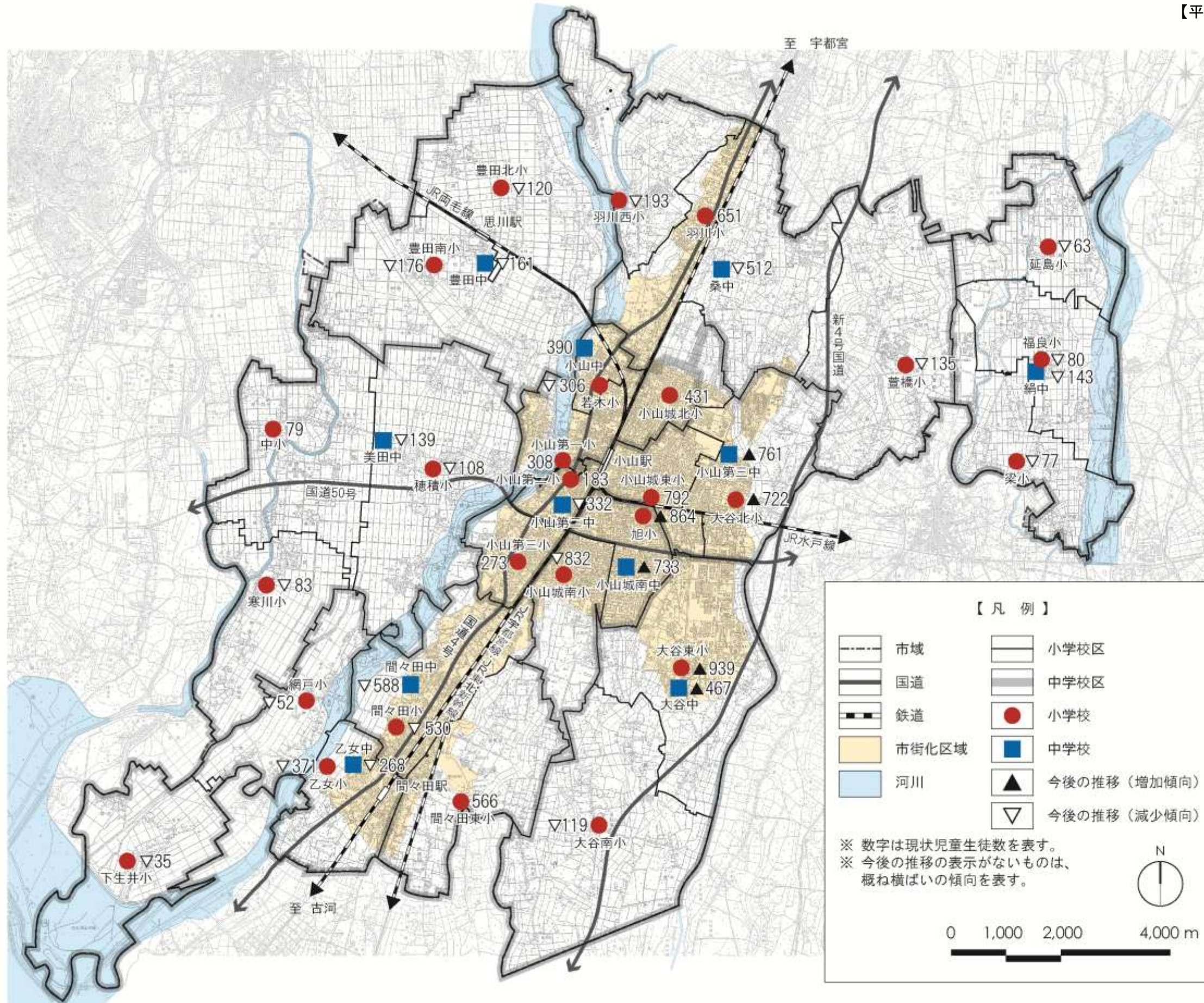




1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

■ 児童生徒数状況図

【平成25年5月現在】





1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

2) 地域別及び学校別の課題

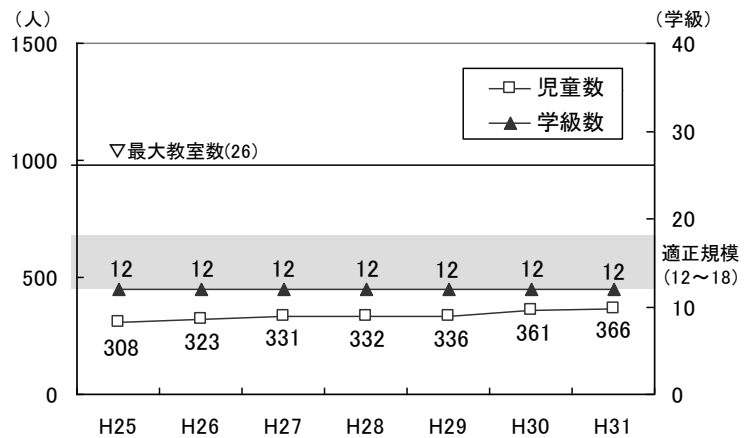
本市における小中学校の現状を踏まえ、学校別の課題は以下のとおりです。

(1) 小山地域

① 小山第一小学校

平成25年度現在は12学級で適正規模となっており、今後も児童数が緩やかに増加しながらも12学級を維持することから、適正規模の範囲内で学級数を維持することが課題となります。

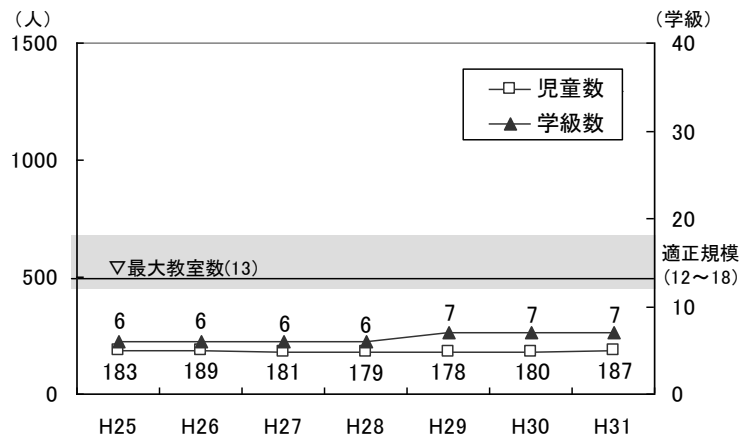
■ 学級数と児童数の推移（小山第一小学校）



② 小山第二小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっていますが、児童数はほぼ横ばいで、35人学級が拡大される場合には、学級数が増加することも予想されますが、現状を維持することが課題となります。

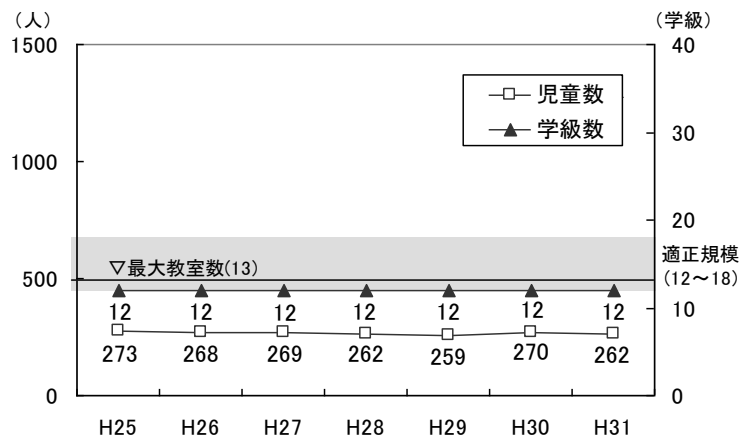
■ 学級数と児童数の推移（小山第二小学校）



③ 小山第三小学校

平成25年度現在は12学級で適正規模となっており、今後も児童数がほぼ横ばいで12学級となることから、適正規模の範囲内で学級数を維持することが課題となります。

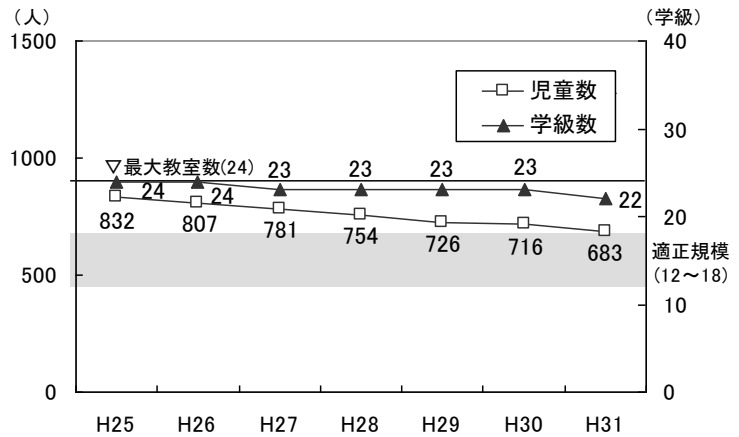
■ 学級数と児童数の推移（小山第三小学校）



#### ④ 小山城南小学校

平成25年度現在は24学級で大規模校となっており、最大教室数の24教室を使用していますが、今後は児童数及び学級数が緩やかに減少することから、将来的に適正規模の範囲内で学級数を維持することが課題となります。

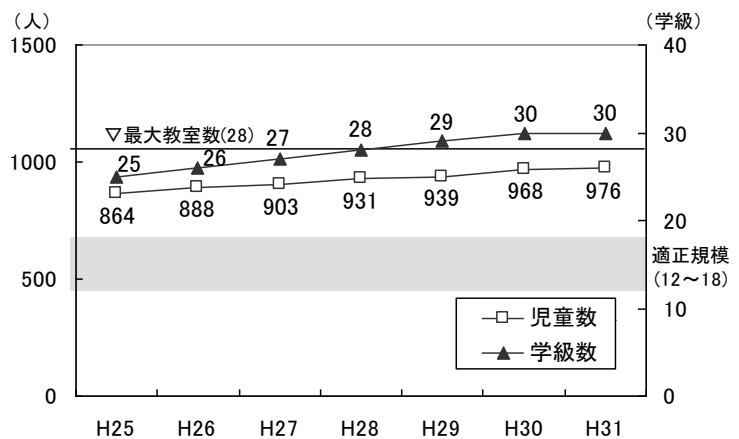
■ 学級数と児童数の推移（小山城南小学校）



#### ⑤ 旭小学校

平成25年度現在は25学級で大規模校となっており、35人学級が拡大された場合には、平成28年度には28学級、平成29年度には29学級となり、平成30年度には30学級となり、最大教室数の28教室を上回ることから、教室数の確保及び児童数の調整が課題となります。

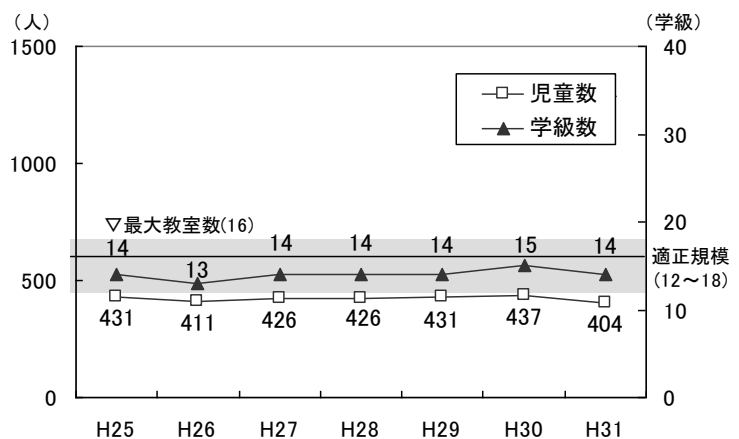
■ 学級数と児童数の推移（旭小学校）



#### ⑥ 小城北小学校

平成25年度現在は14学級で適正規模となっており、今後も児童数及び学級数がほぼ横ばいとなることから、適正規模の範囲内で学級数（児童数）を維持することが課題となります。

■ 学級数と児童数の推移（小城北小学校）



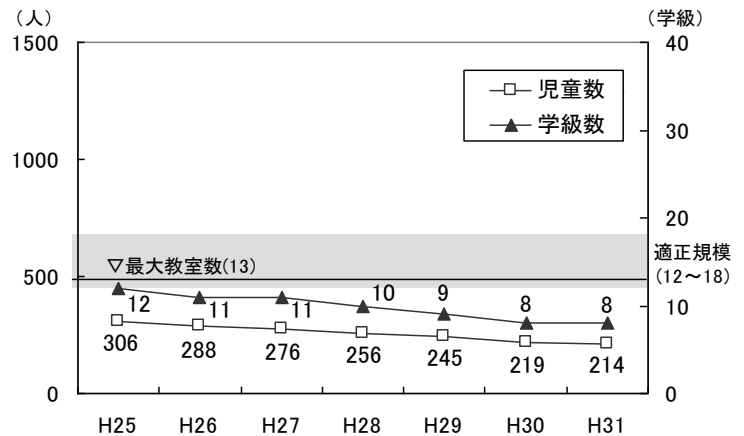


## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ⑦ 若木小学校

平成25年度現在は12学級で適正規模となっていますが、今後は、隣接区域からの新たな転入学者がないものと仮定すると、児童数及び学級数が減少し、小規模化が進むことから、学級数（児童数）の確保が課題となります。

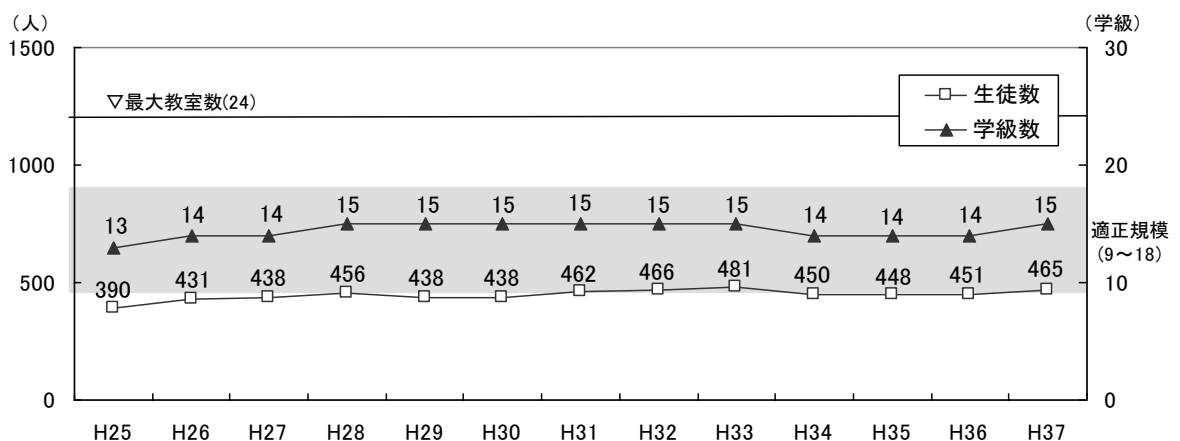
■ 学級数と児童数の推移（若木小学校）



## ⑧ 小山中学校

平成25年度現在は13学級で適正規模となっており、今後も生徒数及び学級数が緩やかに増加するものの、ほぼ横ばいとなることから、適正規模の範囲内で学級数（児童数）を維持することが課題となります。

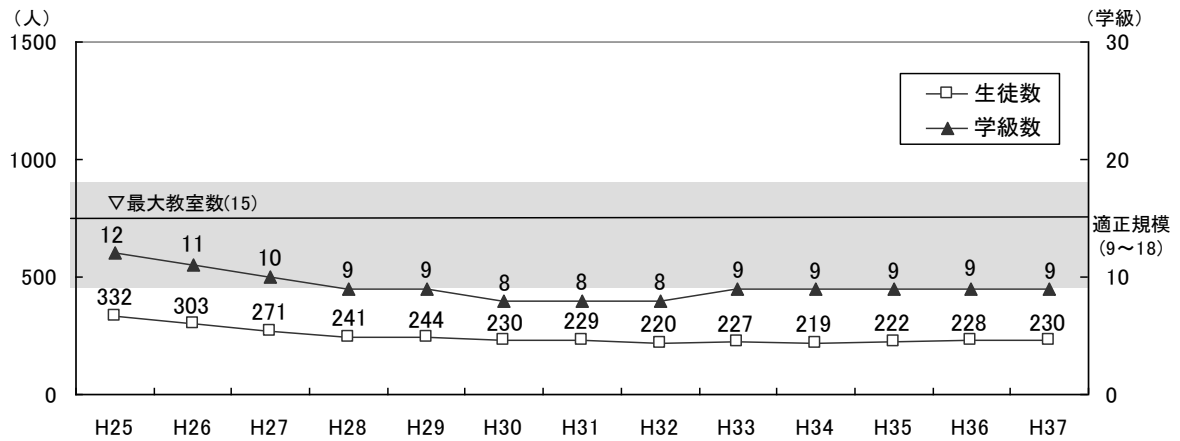
■ 学級数と生徒数の推移（小山中学校）



## ⑨ 小山第二中学校

平成25年度現在は12学級で適正規模となっていますが、今後は生徒数及び学級数が減少し、平成30年度には一時的に小規模校となりますが、平成33年には適正規模の9学級に復帰し、その後は横ばいとなることから、適正規模の範囲内で学級数（児童数）を維持することが課題となります。

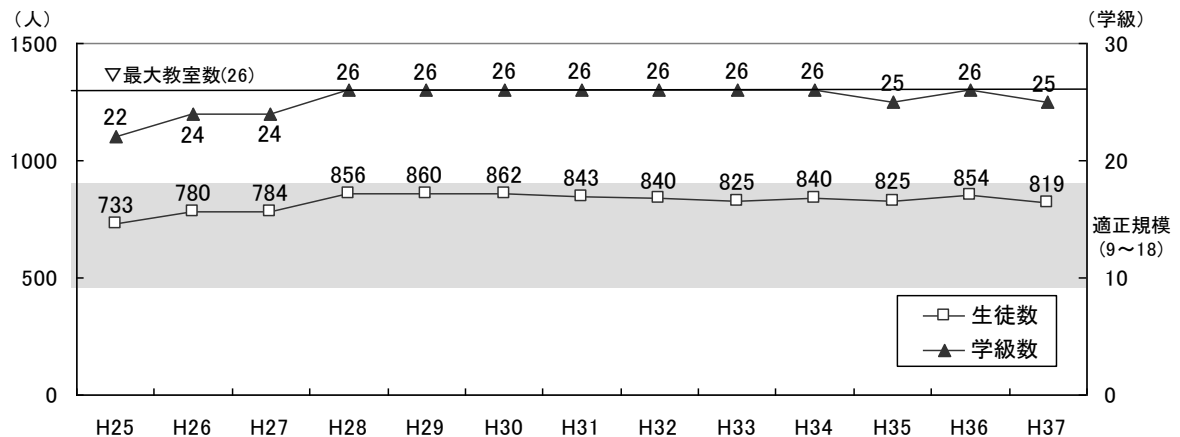
### ■ 学級数と生徒数の推移（小山第二中学校）



## ⑩ 小山城南中学校

平成25年度現在は22学級で大規模校となっており、今後も生徒数及び学級数が増加し、平成28年度には最大教室数の26学級になると予想されます。一方で、その後はほぼ横ばいとなることから、学級数が最大教室数を超えないように児童数の調整が課題となります。

### ■ 学級数と生徒数の推移（小山城南中学校）



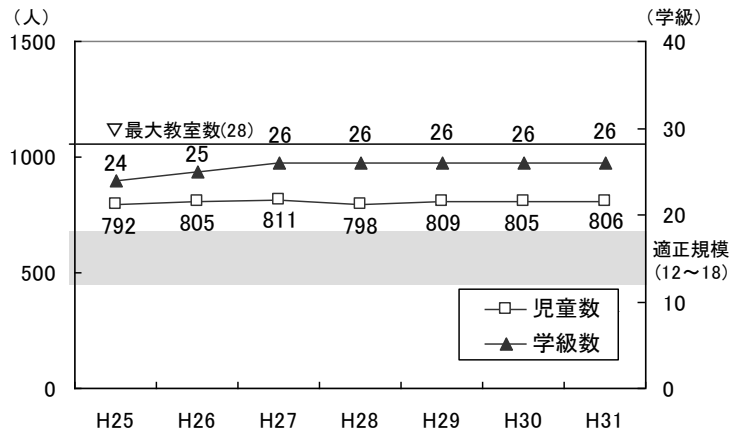
## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ■ (2) 大谷地域

## ① 小山城東小学校

平成25年度現在は24学級で大規模校となっており、平成27年度には26学級まで増加しますが、その後はほぼ横ばいとなることから、最大教室数の28教室を超えないよう児童数の調整が課題となります。

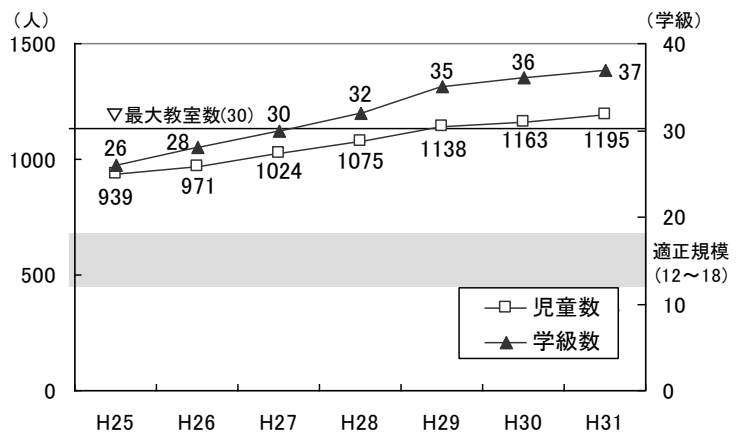
■ 学級数と児童数の推移（小山城東小学校）



## ② 大谷東小学校

平成25年度現在は26学級で大規模校となっており、平成27年度には30学級、平成28年度には32学級、平成31年度には37学級に増加し、最大教室数の30教室を大きく上回ることから、教室数の確保及び児童数の調整が課題となります。

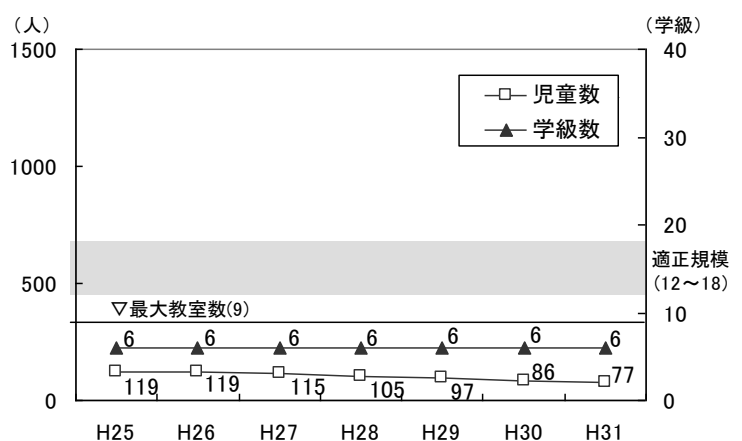
■ 学級数と児童数の推移（大谷東小学校）



## ③ 大谷南小学校

平成25年度現在は6学級で、小規模化が進んでおり、今後も児童数が減少することから、複式学級を発生させないように児童数の確保が課題となります。

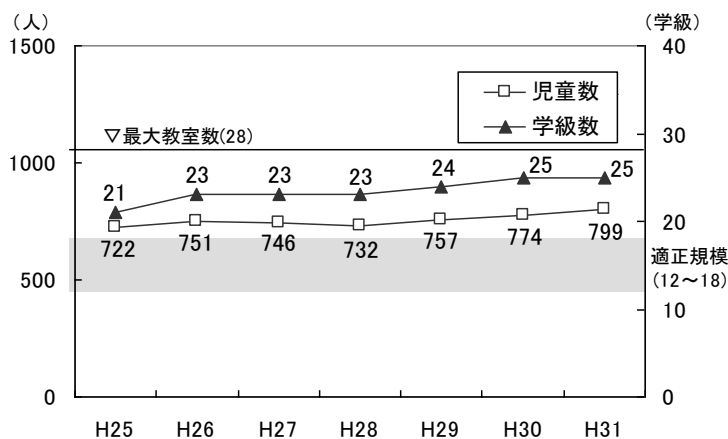
■ 学級数と児童数の推移（大谷南小学校）



#### ④ 大谷北小学校

平成25年度現在は21学級で大規模校となっており、今後も児童数及び学級数が増加し、平成30年度には25学級となることから、最大教室数の28教室を超えないよう児童数の調整が課題となります。

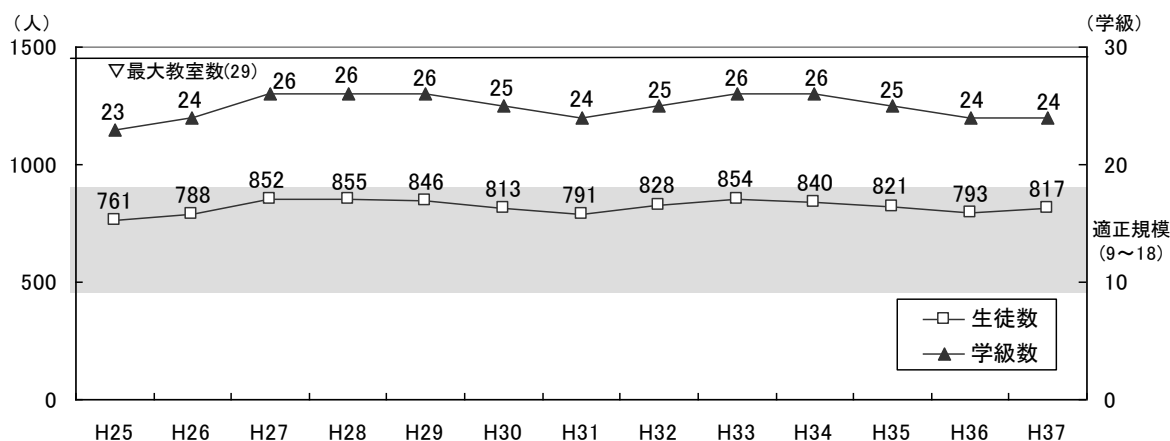
■ 学級数と児童数の推移（大谷北小学校）



#### ⑤ 小山第三中学校

平成25年度現在は23学級で大規模校となっています。今後も生徒数及び学級数が増加し、平成27年度には26学級となりますが、その後は24から26学級でほぼ横ばいとなることから、最大教室数の29教室を超えないようにしながら、適正規模にすることが課題となります。

■ 学級数と生徒数の推移（小山第三中学校）

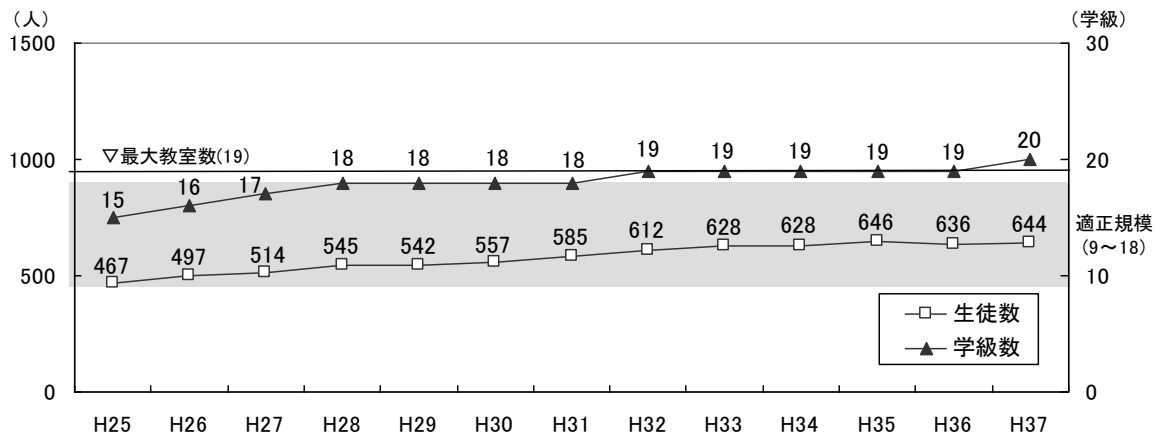


1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

⑥ 大谷中学校

平成25年度現在は15学級で適正規模となっています。今後は生徒数及び学級数が増加し、平成32年度には19学級で大規模校となり、平成37年度には最大教室数の19教室を超える20学級となることが予想されることから、最大教室数を超えないようにすること又は教室数の確保が課題となります。

■ 学級数と生徒数の推移（大谷中学校）

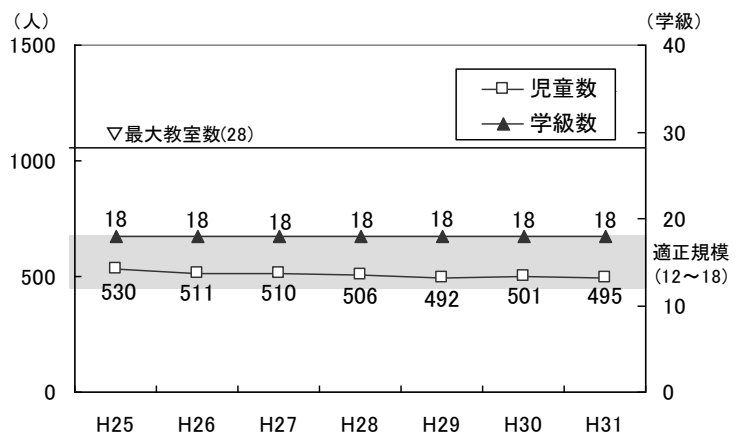


■ (3) 間々田地域

① 間々田小学校

平成25年度現在は18学級で適正規模となっており、今後も横ばいとなることから、現状を維持することが課題となります。

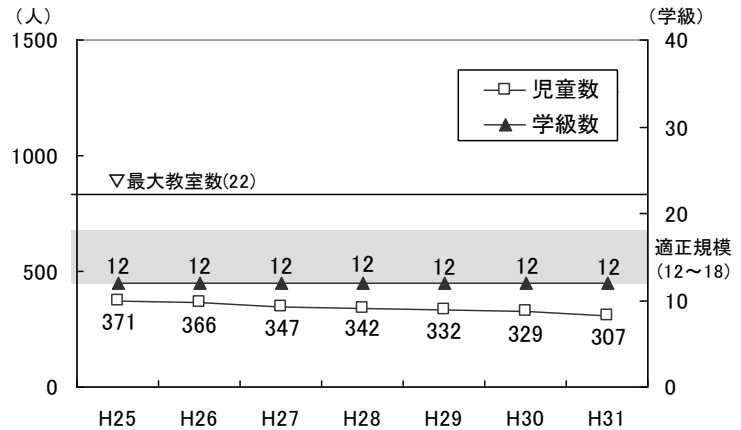
■ 学級数と児童数の推移（間々田小学校）



## ② 乙女小学校

平成25年度現在は12学級で適正規模となっており、今後も学級数は横ばいとなりますが、児童数が緩やかに減少することが予想されることから、適正規模の範囲内で学級数（児童数）を維持することが課題となります。

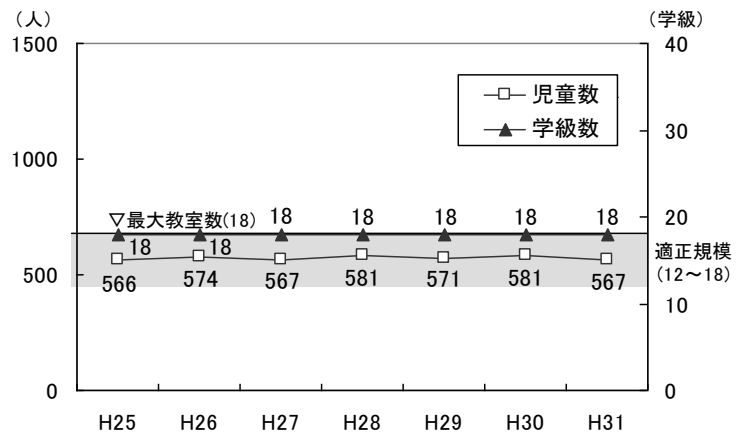
■ 学級数と児童数の推移（乙女小学校）



## ③ 間々田東小学校

平成25年度現在は18学級で適正規模となっており、今後も横ばいとなることから、最大教室数の18教室を超えず、適正規模の範囲内となるように学級数（児童数）を維持することが課題となります。

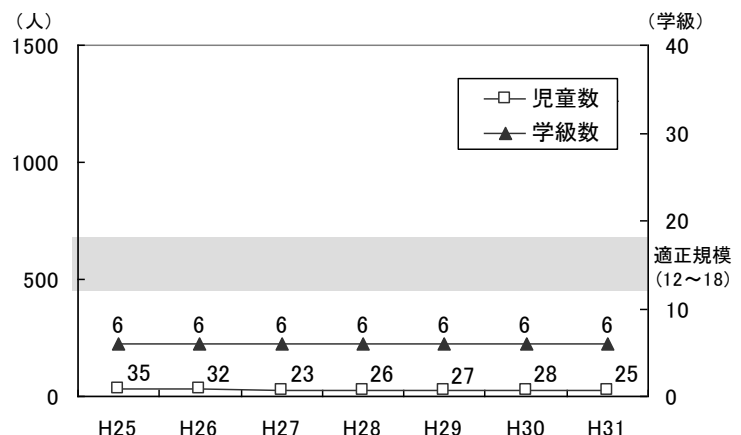
■ 学級数と児童数の推移（間々田東小学校）



## ④ 下生井小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が減少することが予想されることから、児童数の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

■ 学級数と児童数の推移（下生井小学校）



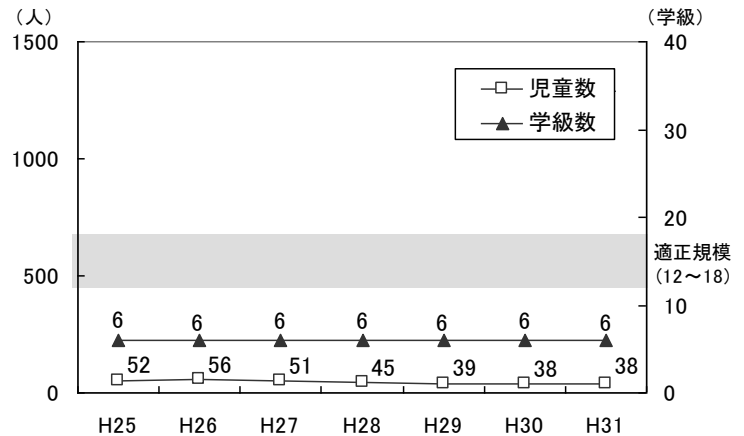
※ 下生井小は、国基準では2つの複式学級が発生することになります。このことから、本市では、小規模特認校制度を導入して学区外からも広く児童を集めている他、市採用教員2名を配置して6学級としています。

## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ⑤ 網戸小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が減少することが予想されることから、児童数の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

■ 学級数と児童数の推移（網戸小学校）

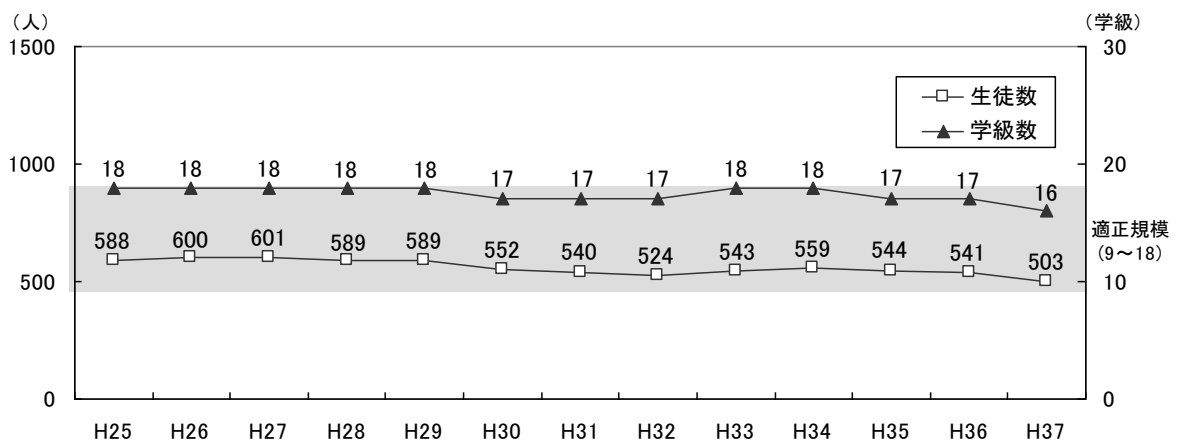


※網戸小は、国基準では1つの複式学級が発生することになります。このことから、本市では、小規模特認校制度を導入して学区外からも広く児童を集めている他、市採用教員を配置して6学級としています。

## ⑥ 間々田中学校

平成25年度現在は18学級で適正規模となっており、今後は生徒数及び学級数が緩やかに減少していくことが予想されることから、適正規模の範囲内となるように学級数を維持することが課題となります。

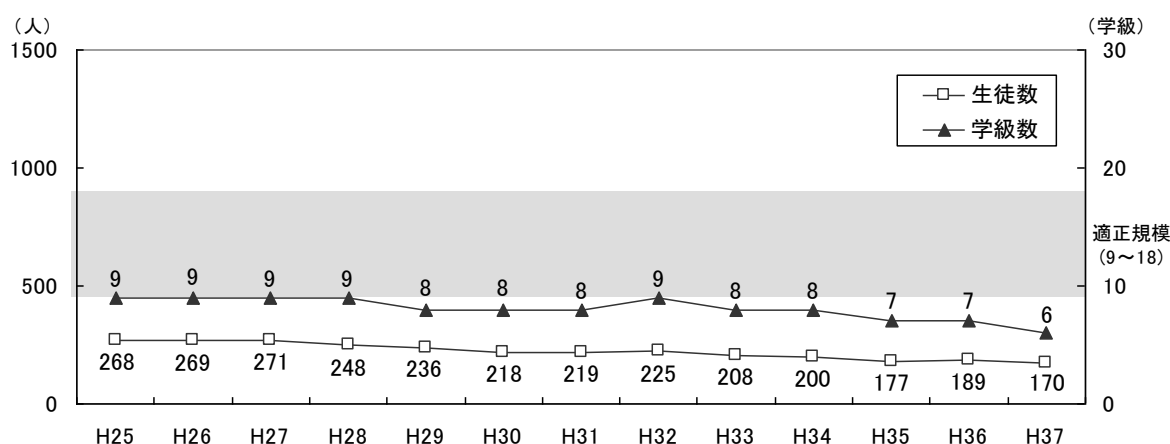
■ 学級数と生徒数の推移（間々田中学校）



## ⑦ 乙女中学校

平成25年度現在は9学級で適正規模となっていますが、今後は生徒数及び学級数が緩やかに減少していくことが予想されることから、適正規模の範囲内となるように学級数を維持することが課題となります。

### ■ 学級数と生徒数の推移（乙女中学校）

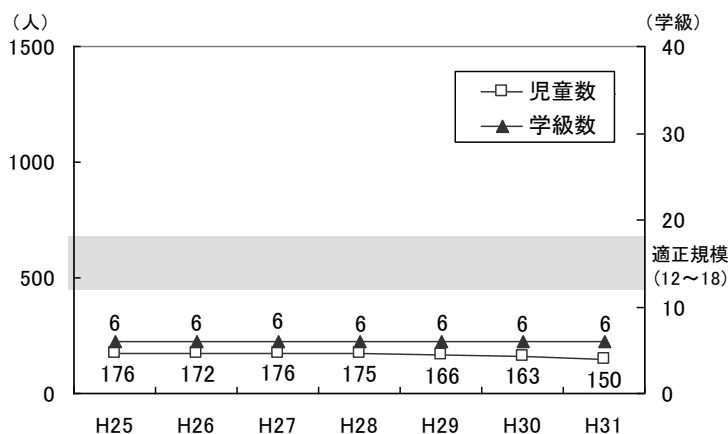


## （４）美田地域

### ① 豊田南小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が減少することが予想されることから、複式学級が発生しないように、児童数の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

### ■ 学級数と児童数の推移（豊田南小学校）



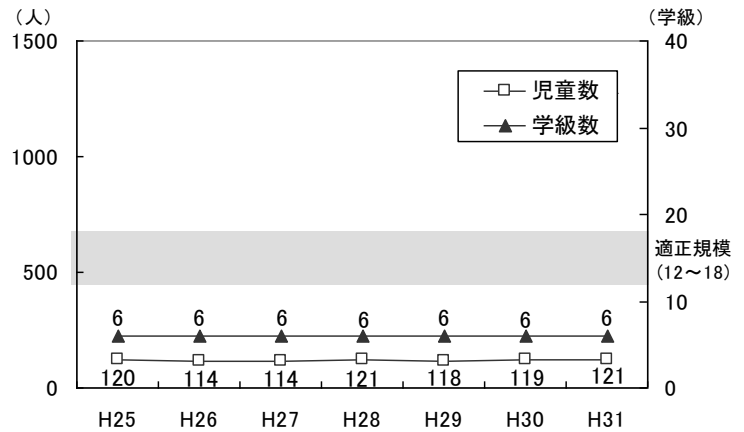


## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ② 豊田北小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後は児童数がほぼ横ばいとなることが予想されることから、複式学級が発生しないように、児童数を確保するなどが課題になります。

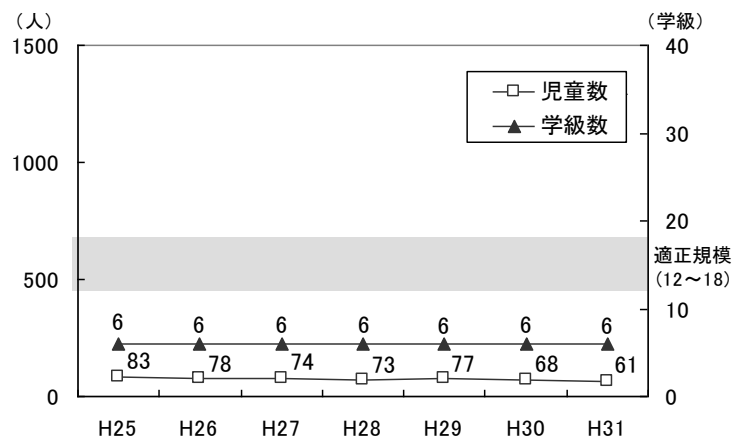
■ 学級数と児童数の推移（豊田北小学校）



## ③ 寒川小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が減少することが予想されることから、児童数の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

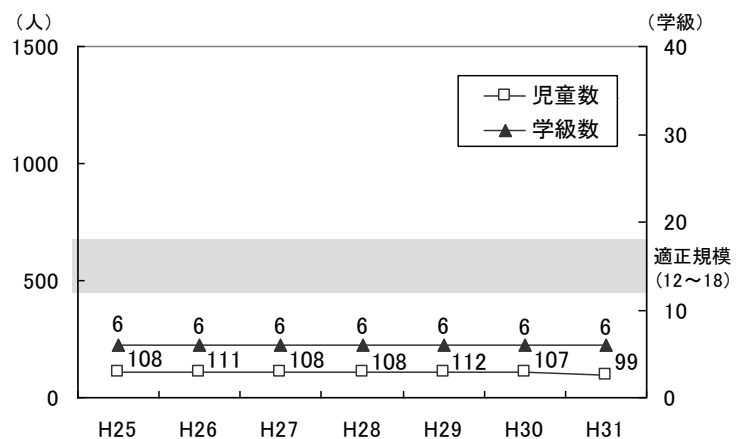
■ 学級数と児童数の推移（寒川小学校）



## ④ 穂積小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が緩やかに減少していくことから、複式学級が発生しないように、児童数の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

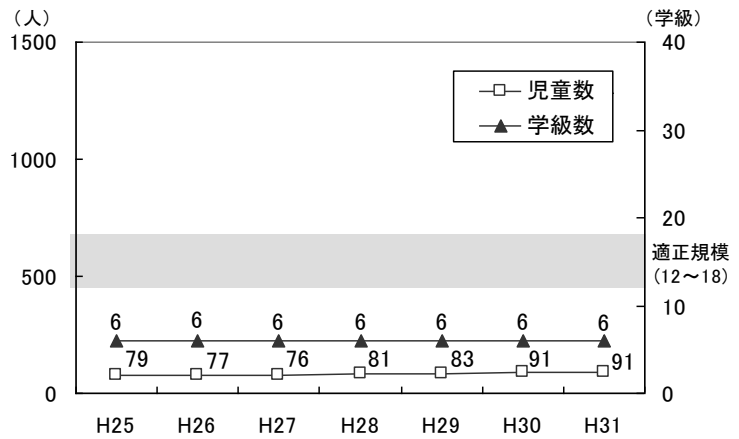
■ 学級数と児童数の推移（穂積小学校）



## ⑤ 中小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっています。今後は児童数が緩やかに増加しますが、平成31年度の児童数は91人と少ないことが予想されることから、複式学級が発生しないように、児童数の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

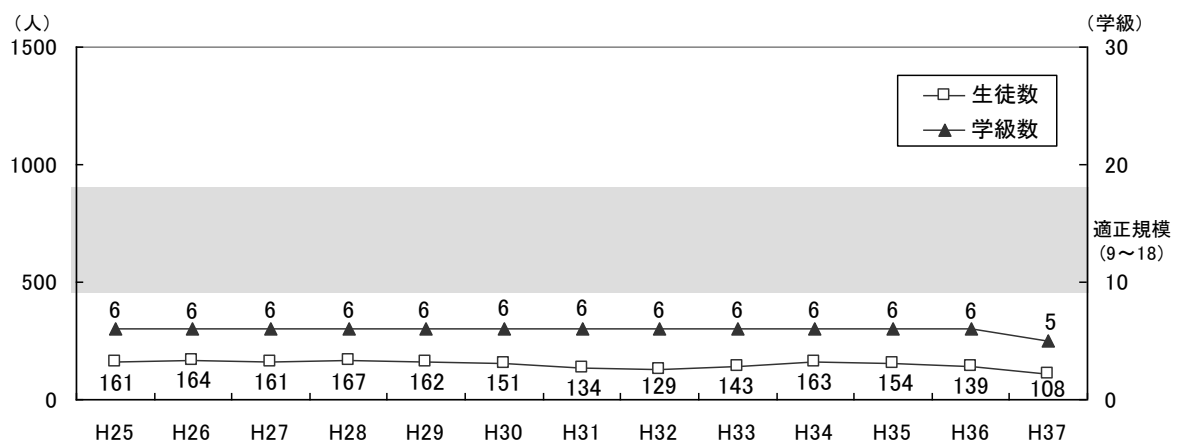
■ 学級数と児童数の推移（中小学校）



## ⑥ 豊田中学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も生徒数が減少し、平成37年度には5学級に減少することが予想されることから、学級数が減少しないように生徒数を確保することが課題となります。

■ 学級数と生徒数の推移（豊田中学校）

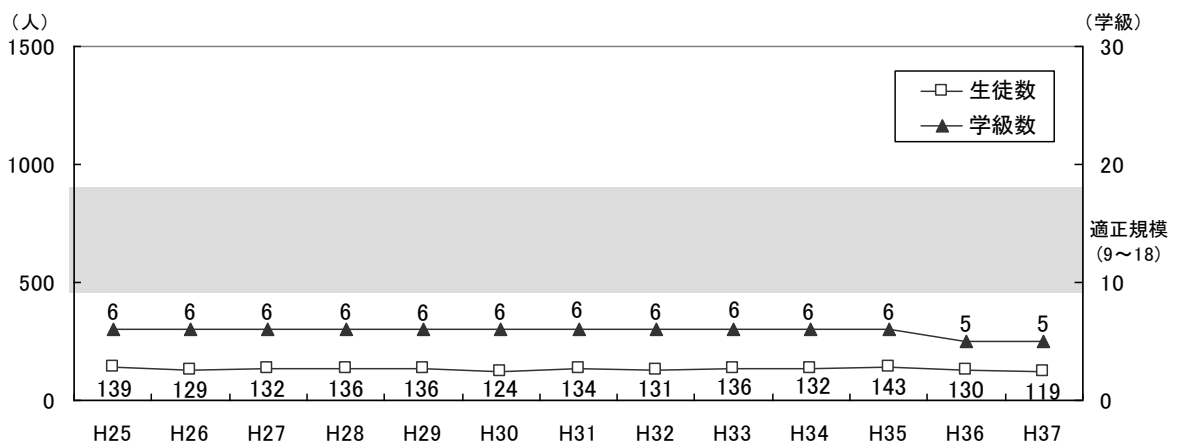


## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ⑦ 美田中学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も生徒数が減少し、平成36年度には5学級に減少することが予想されることから、学級数が減少しないように生徒数を確保することが課題となります。

## ■ 学級数と生徒数の推移（美田中学校）

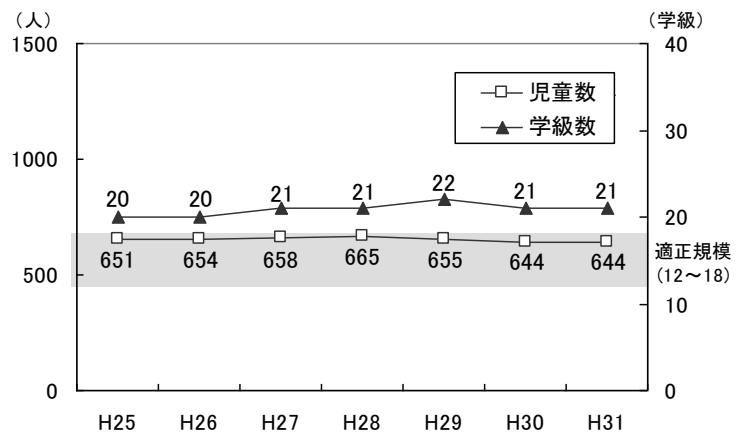


## ■ (5) 桑地域

## ① 羽川小学校

平成25年度現在は20学級で大規模校となっており、今後も緩やかな増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいとなることが予想されることから、学級数を適正規模に維持することが課題となります。

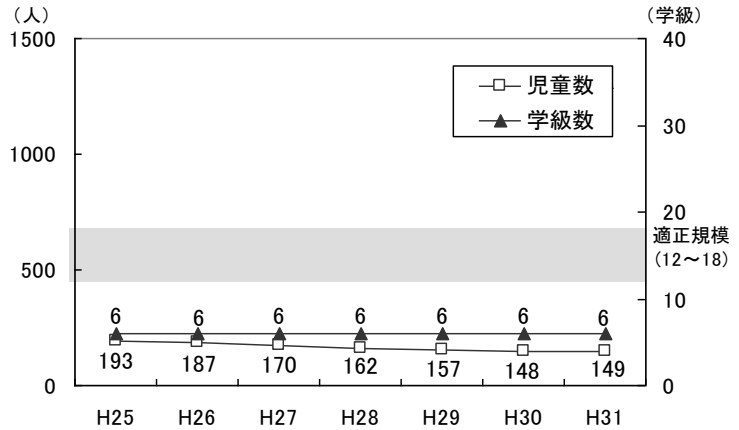
## ■ 学級数と児童数の推移（羽川小学校）



## ② 羽川西小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が緩やかに減少していくことから、複式学級が発生しないように学級数（児童数）を確保することが課題となります。

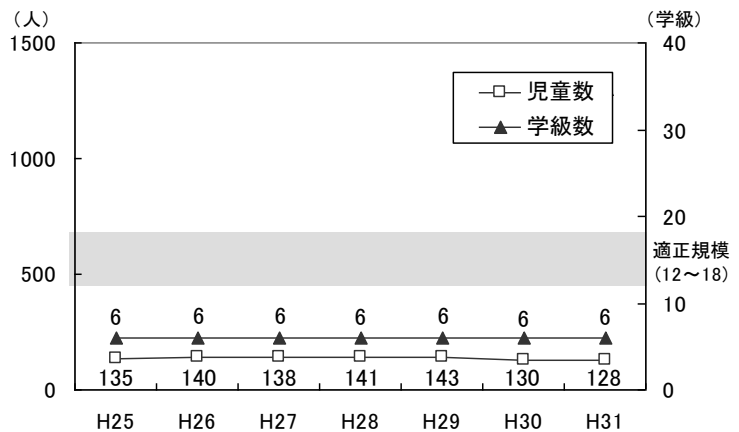
■ 学級数と児童数の推移（羽川西小学校）



## ③ 萱橋小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後は児童数が緩やかに減少しながらほぼ横ばいとなることから、複式学級が発生しないように学級数（児童数）を確保することが課題となります。

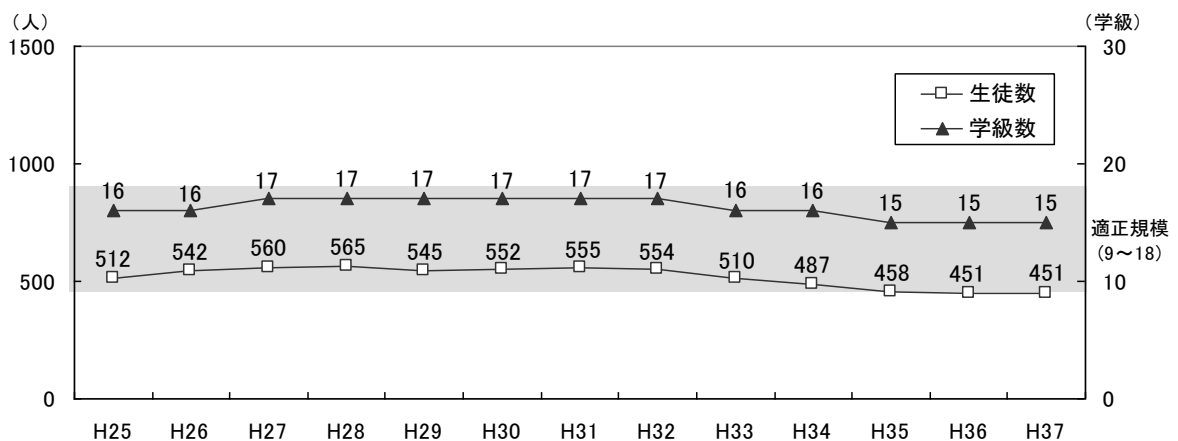
■ 学級数と児童数の推移（萱橋小学校）



## ④ 桑中学校

平成25年度現在は16学級で適正規模となっており、平成32年度から生徒数及び児童数が減少すると予想されることから、適正規模の範囲内となるように学級数（児童数）を維持していくことが課題となります。

■ 学級数と生徒数の推移（桑中学校）



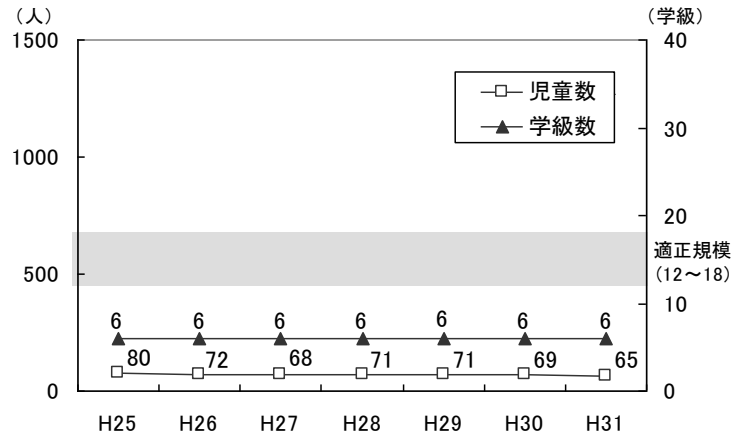
## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## ■ (6) 絹地域

## ① 福良小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が緩やかに減少していくことから、複式学級が発生しないように、学級数(児童数)の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

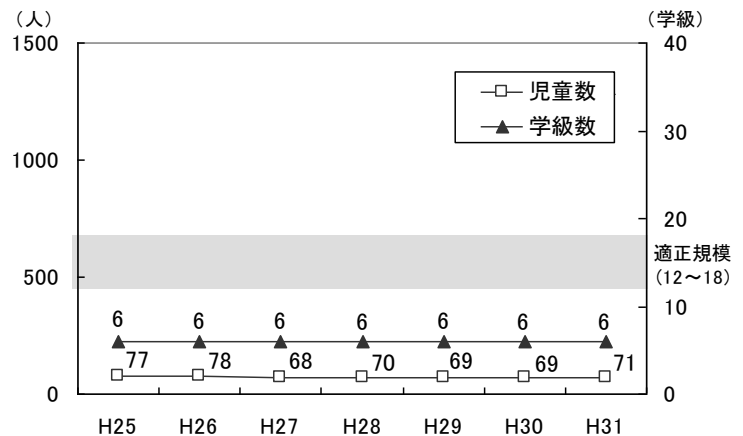
■ 学級数と児童数の推移 (福良小学校)



## ② 梁小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も児童数が緩やかに減少していくことから、複式学級が発生しないように、学級数(児童数)の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

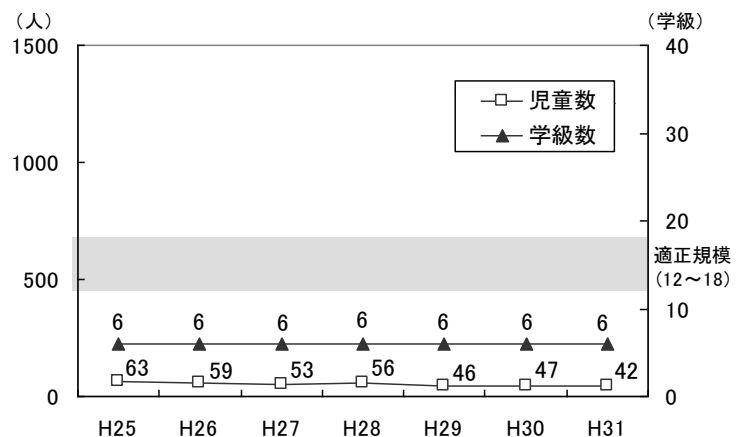
■ 学級数と児童数の推移 (梁小学校)



## ③ 延島小学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、平成28年度から複式学級となることが予想されていることから、複式学級が発生しないように、学級数(児童数)の確保や隣接校との統廃合などを検討することが課題となります。

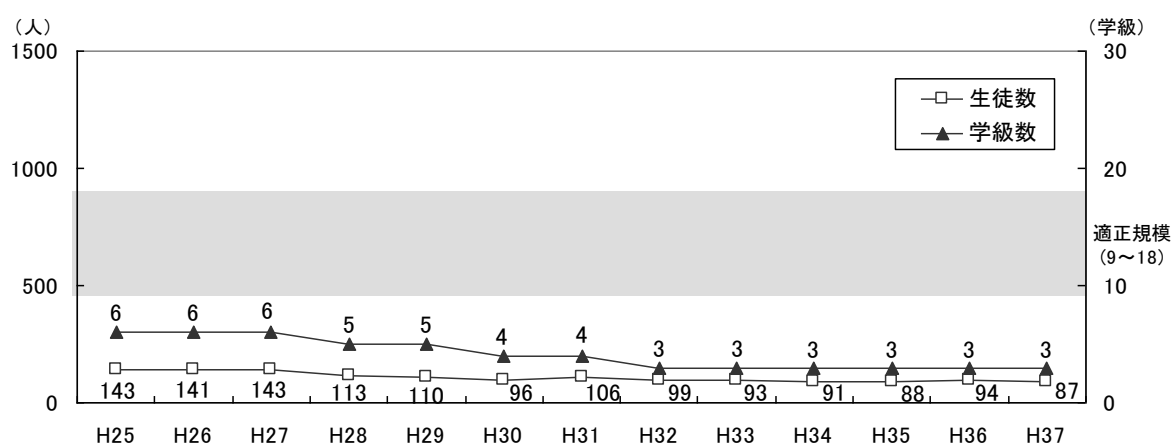
■ 学級数と児童数の推移 (延島小学校)



#### ④ 絹中学校

平成25年度現在は6学級で小規模校となっており、今後も生徒数及び学級数が減少し、平成32年度には3学級（学年単学級）となることが予想されることから、学級数（生徒数）を確保することが課題となります。

##### ■ 学級数と生徒数の推移（絹中学校）



## 1-2 小山市における学校規模等の現状と課題

## 3) 市全体における課題

本市における小中学校の現状や学校別の課題などを踏まえ、市全体における学校規模、通学距離、その他の課題等について検証すると、以下のようになります。

## ■ (1) 適正規模に関する課題

教育の機会均等と教育水準の維持向上を図るためには、学校規模の格差による教育上の問題を解消し、可能な範囲で学校規模の適正化を図る必要があると考えられます。

本市における適正規模に関する課題について、学校の規模別に整理したものは、次のとおりです。

## ■ 学校規模に関する課題の一覧表

規模	主な課題
小規模校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単学級（1学年1学級）の場合、クラス替えがないことから、児童生徒間の評価や序列の固定化を防ぐことが課題となります。</li> <li>○ 人数が少ないため、多様な価値観や様々な表現方法にふれるなど、切磋琢磨する機会を増やし、幅広く考えることや、より深く議論することを身に付けること、また、学校行事やクラブ活動、部活動、児童会・生徒会活動などを活発に行えるようにすることが課題となります。</li> </ul>
大規模校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人数が多いため、きめ細やかな指導を行うことや、児童生徒相互及び教師との関係を深める機会を増やすこと、学校行事や集会活動などを円滑に行うことなどが課題となります。</li> <li>○ 学級数が多いため、体育館、プール、特別教室などの利用に制約を生じさせないことが課題となります。</li> </ul>

## ■ (2) 通学距離に関する課題

近くに学校がありながら、現在の学区編成では遠くの学校に通学していることなどから、通学距離を背景とした学区見直しの必要性が生じています。

## ■ (3) その他の課題

土地区画整理事業や幹線道路の整備などにより区画や交通事情が変化することから、通学路の安全性の確保等を背景とした学区の見直しが必要となる学区が存在します。

## 1-3 これまでの行政の施策と取り組み

これまでの行政の施策と取り組みとして、学校適正化に関する国、県、市が行ってきた各種の取り組みや、関連施策である小規模特認校制度、小中一貫教育の考え方などについて整理します。

### ■ (1) 国、県、市による取り組み

#### ① 国の学校規模等に関する規定

##### 【学校規模に関する規定】

- 学校教育法施行規則及び義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令
  - ・ 小中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りではない。

##### 【学級編制に関する規定】

- 公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律
  - ・ 同学年の児童・生徒で編制する、1学級の児童・生徒数は40人を標準
  - ・ 2つの学年で編制する児童・生徒数は16人
  - ・ 第1学年の児童を含む学級に当たっては8人
  - ・ 小学校1年生については35人 [H23改正]
  - ・ 市町村教委や学校の実情に応じ、柔軟に学級編制 [H24改正]

##### ■ 参考：学級編制の標準

学校の種類	学級編制の区分	一学級の児童又は生徒の数
小学校	同学年の児童で編制する学級	40人(第一学年の児童で編制する学級にあつては、35人)
	2つの学年の児童で編制する学級	16人(第一学年の児童を含む学級にあつては、8人)
	学校教育法第81条第2項及び第3項に規定する特別支援学級	8人
中学校(中等教育学校の前期課程を含む。)	同学年の生徒で編制する学級	40人
	2つの学年の生徒で編制する学級	8人
	学校教育法第81条第2項及び第3項に規定する特別支援学級	8人

##### 【通学距離に関する規定】

- 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令
  - ・ 通学距離が小学校にあつては概ね4km以内、中学校にあつては概ね6km以内であること



## ② 市の統廃合・学区再編等に関わるこれまでの主な取り組み

本誌では、平成9年度から現在まで、小・中学校通学区域の検討や、城南第二土地区画整理地内再編検討、学校再編検討、中学校隣接校希望選択制導入、小規模特認制度導入など、市の統廃合・学区再編に関わる様々な取り組みを行ってきました。

その主な取り組み内容は、下記のとおりです。

### ■ 市の統廃合・学区再編等に関わるこれまでの主な取り組み一覧表

年 度	主な取り組み内容
平成 9年度	○ 小・中学校通学区域検討委員会準備会 ○ 城南第二土地区画整理地内再編検討委員会
平成12年度	○ 学区再編検討プロジェクト会議（～15年度） ○ 城南第二土地区画整理地内再編に係る説明会
平成13年度	○ 学区再編担当設置 ○ 適正通学区域検討会議
平成14年度	○ 学校選択制プロジェクトチーム会議（～15年度） ○ 小山市立中学校通学区域制度検討会（～15年度）
平成16年度	○ 中学校隣接校希望選択制導入 ○ 複式学級対策懇親会（～17年度）
平成19年度	○ 網戸小小規模化対策懇親会（～21年度） ○ 網戸小保護者説明会
平成20年度	○ 下生井小小規模化対策懇親会（～21年度） ○ 小規模化対策地域説明会（下生井小）
平成21年度	○ 小規模化対策懇親会（下生井小・網戸小） ○ 話し合い決定事項 ・小規模特認校制度の導入 ・平成24年度に今後の方向性について話し合う
平成22年度	○ 小規模特認校制度の導入（下生井小・網戸小）
平成23年度 }	○ 学校適正規模等懇話会の設置・開催

## ■ (2) 小規模特認校制度

小山市では、近い将来に複式学級が生じる可能性があるような特に小規模化した小学校の児童数を増やす対応策として、小規模特認校制度を活用しています。

小規模特認校制度とは、小さな学校で学びたい、子どもを学ばせたいという希望者に対して、通学区域にとらわれず、一定の条件のもと、入学・転学を認める制度です。少人数での教育のよさを生かし、一人ひとりの児童に目の行き届いた教育や個に応じた指導、体験活動等を通して、生きる力や豊かな人間性を培うための制度です。

現在では、下生井小学校と網戸小学校の2校が認定されています。

## ■ (3) 小中一貫教育の考え方

本市では、平成19年度から小中一貫教育の試みを進めており、現在では、全中学校区で様々な取り組みがなされています。

小中一貫教育では、段階的に研究・実践を行っており、第1ステージ、第2ステージ(3年間)、第3ステージを設定し、中学校の特性を生かしながら小中学校の教育課程に連続性を持たせることを目指しています。

現在は、小中一貫教育及び小中一貫校推進に係る将来に向けた方向性を検討中です。

例えば具体的な施設の形態として、同一の校舎内で進める「一体型」、併設した小学校と中学校で進める「併設型」、近接した小学校と中学校で進める「近接型」、校舎の離れた形で進める「分離型」などがあります。

## ■ (4) コミュニティ・スクールの考え方

小山市では現在「コミュニティ・スクール」の取り組みを進めています。これは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。コミュニティ・スクールには保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べるといった取り組みが行われます。

本市では、文部科学省の「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の取組」に係る委託事業を、現在3校で受託し研究を進めており、これらの進捗や方向性とも確認をとりながら適正配置の具体化を進めていくことが大切であると考えます。